

参 考 資 料

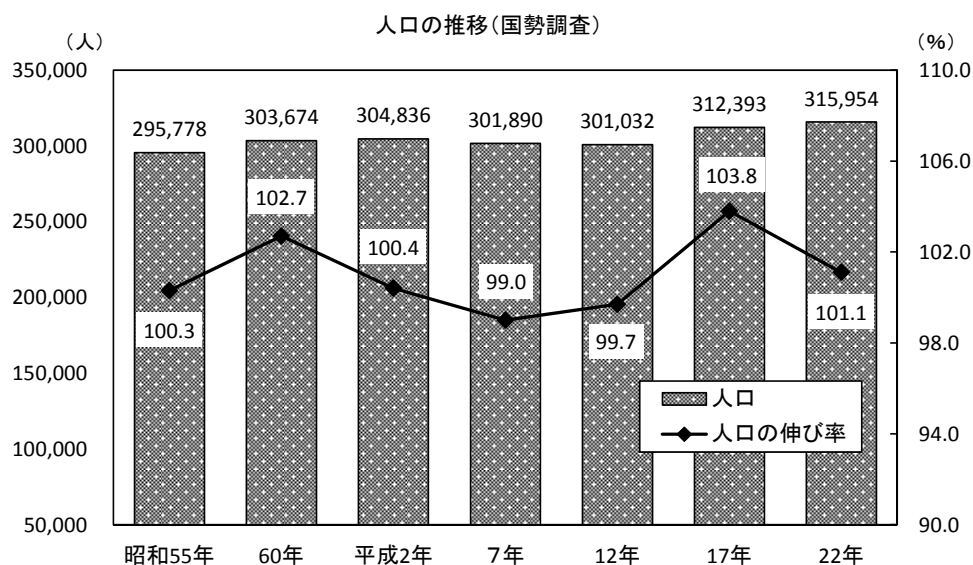
参考資料

1. 那覇市の母子等を取り巻く状況（統計データ）

（1）人口、世帯の動向

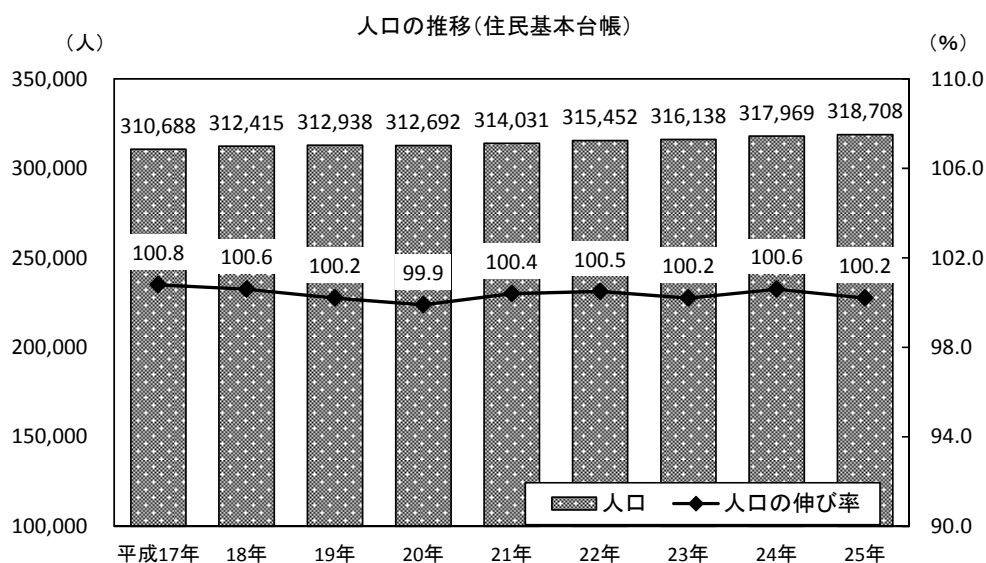
①人口の推移(市)

国勢調査における那覇市の人口は、H17年には31万人を超え、H22年には315,954人となっており、過去30年間で最も多くなっています。



資料：国勢調査

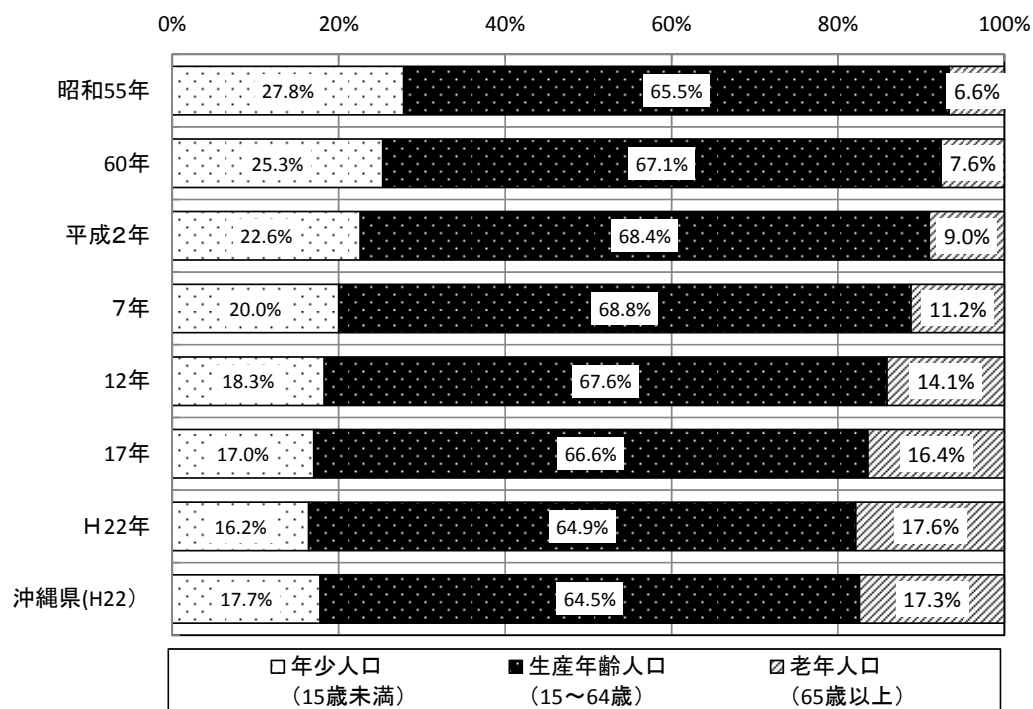
住民基本台帳をみると、H21年以降、緩やかに増加しています。



資料：住民基本台帳（各年3月末）

②年齢3区分別人口(市)

本市の年少人口、生産年齢人口は年々減少していますが、老年人口は増加しています。

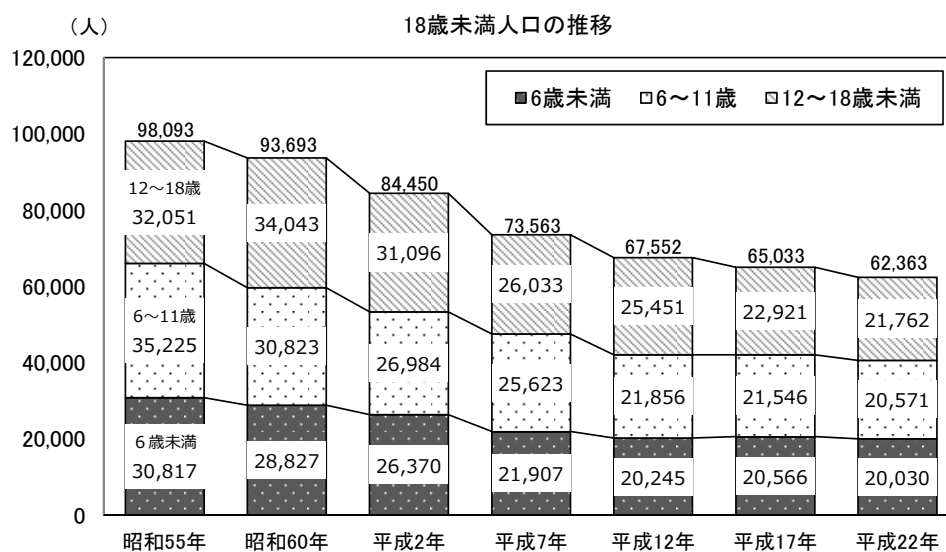


資料：国勢調査

③18歳未満人口の推移(市)

18歳未満人口はH22年現在、62,363人となっており、年々減少しています。H2年と比較しても、約2万人（26%減）少ない状況にあります。

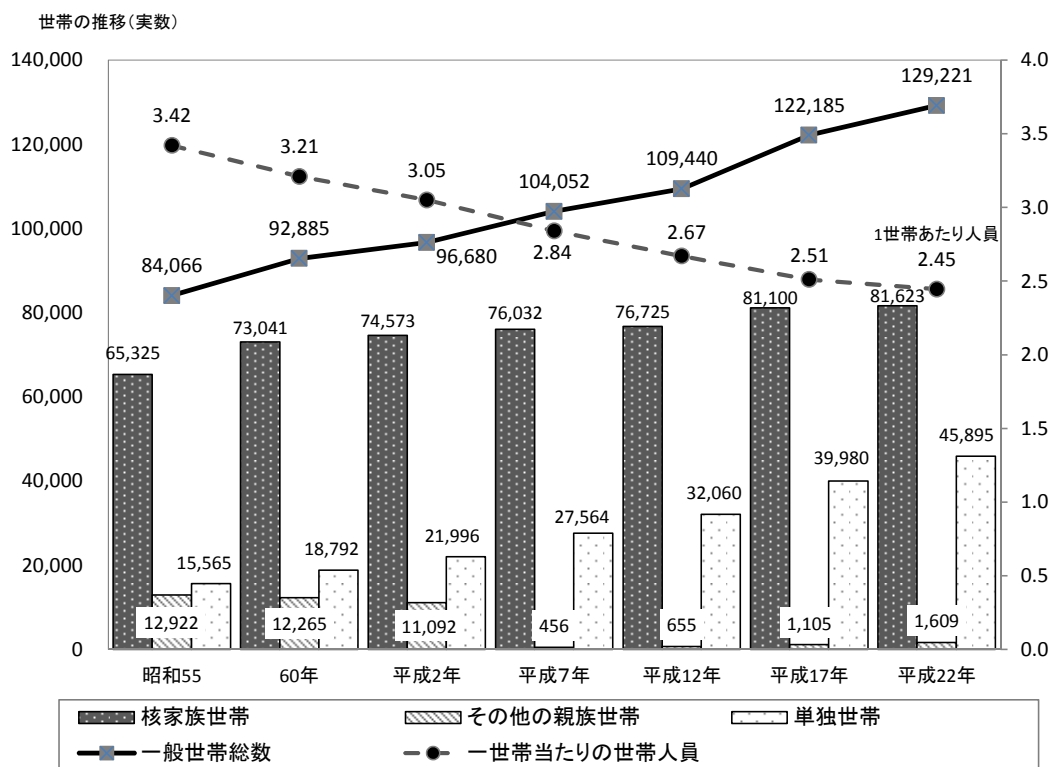
H22年の18歳未満人口を年齢別にH2年と比較してみると、12～18歳未満が9,334人減（30%減）と最も減少が大きく、次いで6歳未満が6,340人減（24%減）、6～11歳未満が6,413人減（23.8%減）となっています。



資料：国勢調査

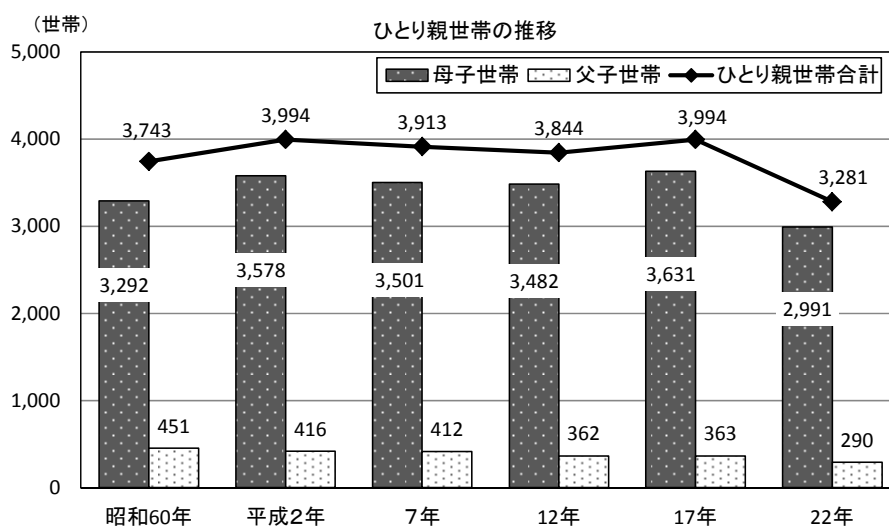
④世帯の推移(市)

国勢調査におけるH22年の一般世帯数は129,221世帯で、増加傾向にあります。H12年以降10年間で約2万世帯の増加となっています。それに対し、1世帯あたりの人員はH22年で2.45人となり、世帯規模の縮小化が進んでいます。



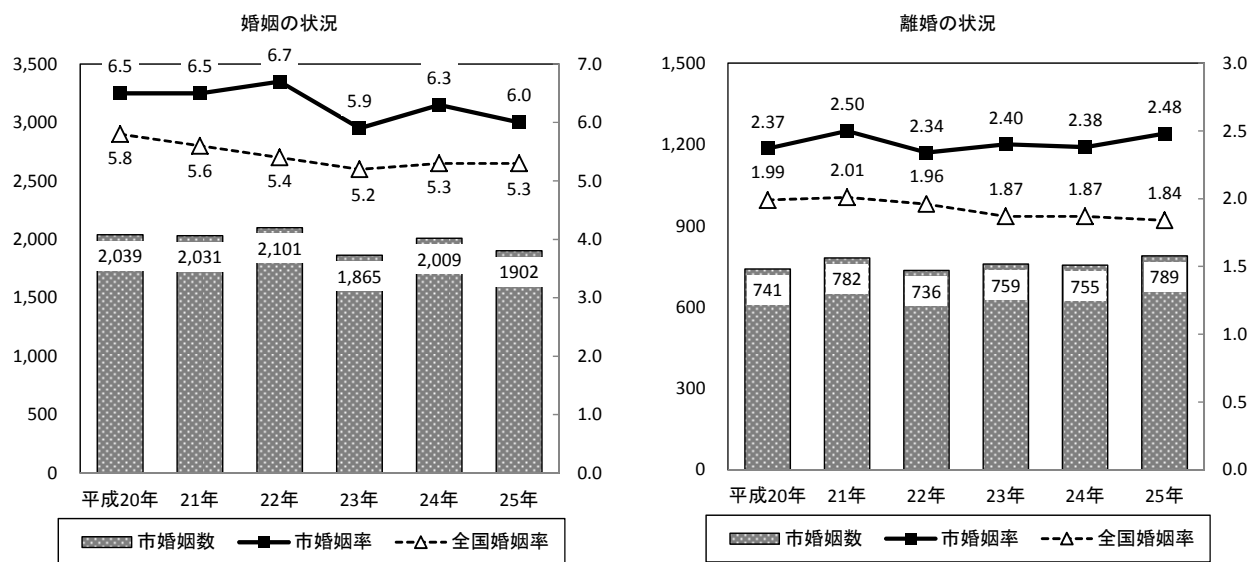
⑤ひとり親世帯の推移(市)

ひとり親世帯（母子・父子世帯）は、H22年現在 3,281 世帯で、母子 2,991 世帯、父子 290 世帯となっています。H7年からH17年までは、約 4,000 世帯で推移していましたが、H22年の調査では減少しています。



⑤婚姻・離婚の状況

婚姻率（人口千対）はH25年6.0となっています。H20年以降、増減をしながら低下していますが、国と比較すると高い状況にあります。離婚率は横ばいで推移しており、国よりも高くなっています。



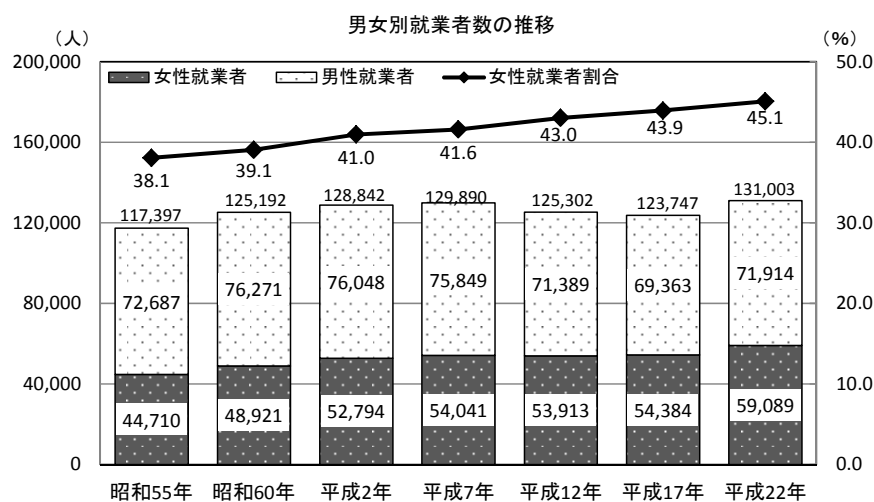
注）離婚率、婚姻率：人口千対

資料：人口動態統計、沖縄県福祉保健部

（２）産業および就業状況

①男女別就業者数の推移(市)

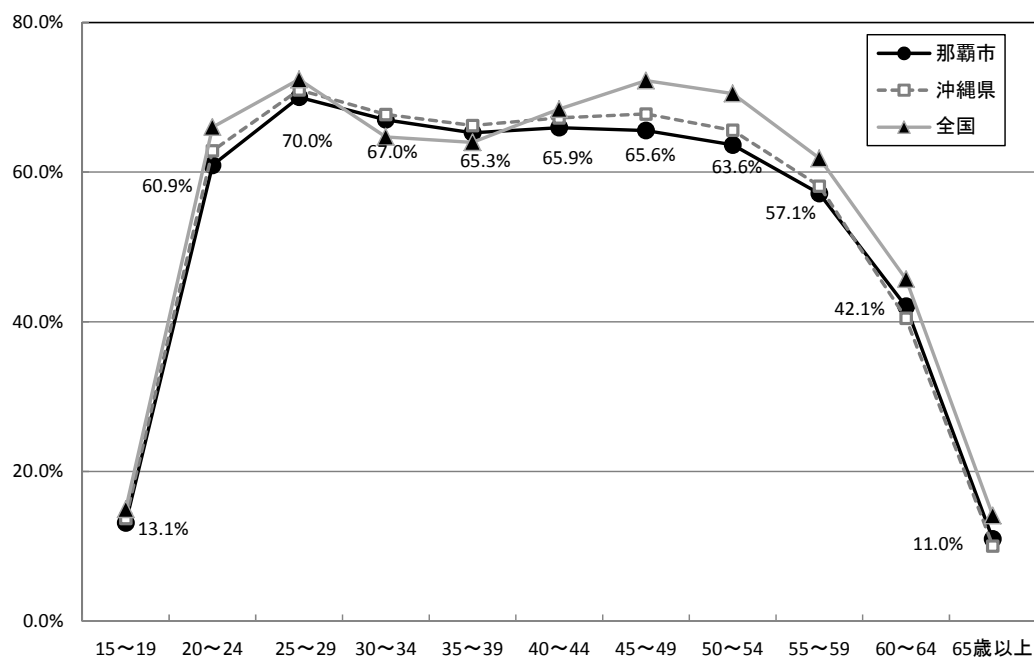
女性の就業者数は、H22年で約5万9千人と、前回調査に比べ5千人弱の増加が見られました。また、総就業者のうち女性の占める割合は、年々増加傾向にあり、H22年で45.1%と、半数に近い割合となっています。



資料：国勢調査

②女性の年齢別労働力率

本市女性の労働力率をみると、25～29 歳が70.0%とピーク期となっています。その後、結婚・出産期にあたる30代に一旦低下し、育児が落ち着いた40代でわずかに上昇しています。いわゆるM字カーブと呼ばれていますが、全国の割合に比べ、M字の谷の部分が浅い状況にあります。



※労働力率(%)＝年齢階級別労働人口（就業者＋完全失業者）÷年齢階級別の人口×100

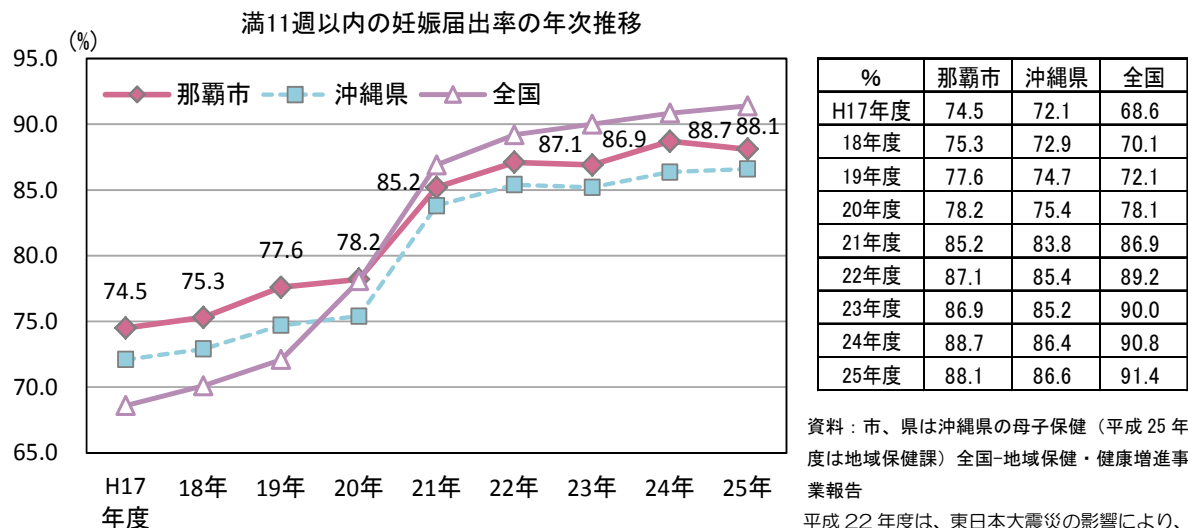
女性	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65歳以上
那覇市	13.1%	60.9%	70.0%	67.0%	65.3%	65.9%	65.6%	63.6%	57.1%	42.1%	11.0%
沖縄県	13.7%	62.9%	71.0%	67.7%	66.2%	67.3%	67.8%	65.6%	58.1%	40.5%	10.0%
全国	14.9%	66.0%	72.4%	64.7%	64.0%	68.4%	72.2%	70.5%	61.8%	45.7%	14.1%

資料：国勢調査（H22 年）

(3) 母子保健の現状

① 11 週以内の妊娠届出状況

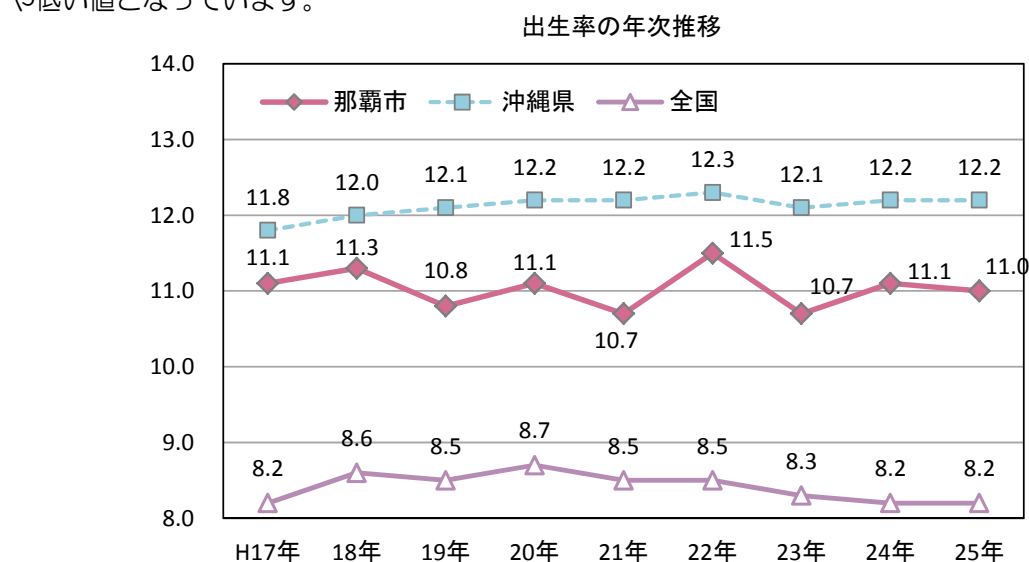
H25 年年度の 11 週以内の妊娠届出状況をみると、9 割弱（88.1%）が 11 週以内に届け出を済ませており、増加傾向にあります。国、県も同様に増加しており、本市は沖縄県より 11 週以内の届出率は高いものの、全国と比較すると 3 ポイントほど下回っています。



② 出生の状況

<出生率の推移>

H25 年の本市の出生率（人口千対）は 11.0、出生数は 3,495 人となっています。出生率、出生数ともに経年的に増減を繰り返しながら横ばいで推移しています。沖縄県の出生率よりもやや低い値となっています。



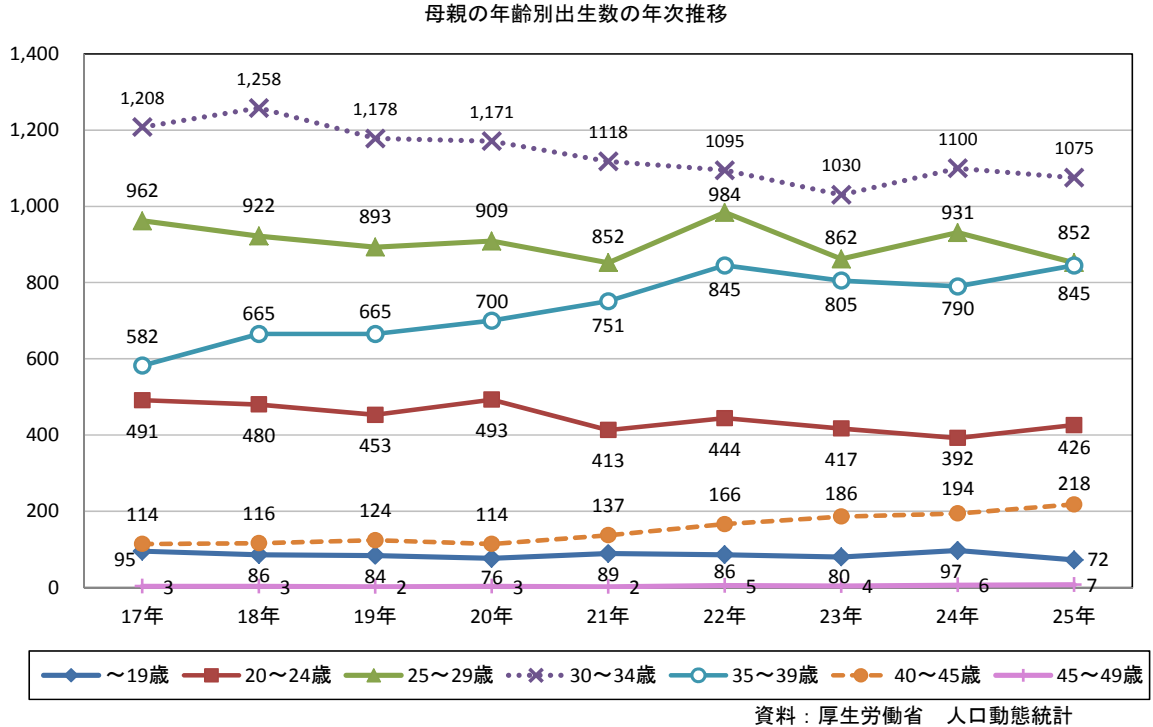
□ 出生数

	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
那覇市	3,455	3,530	3,399	3,466	3,362	3,625	3,386	3,510	3,495
沖縄県	16,119	16,483	16,588	16,736	16,744	17,098	16,918	17,074	17,209
全国	1,062,604	1,092,662	1,089,745	1,091,150	1,070,035	1,071,304	1,050,698	1,037,231	1,029,816

資料：人口動態統計、沖縄県福祉保健部

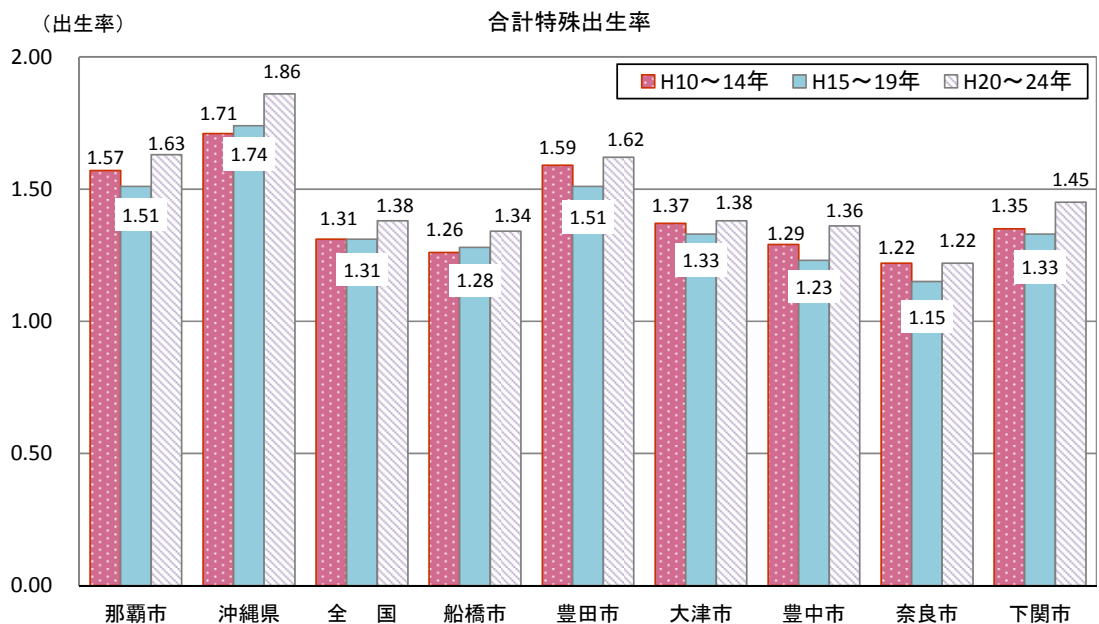
<母親の年齢別出生数(市)>

母親の年齢別出生数をみると、30～34 歳での出生が最も多くなっていますが、H21 年以降減少傾向にあります。20～24 歳でも徐々に減少しています。一方、35～39 歳及び 40～45 歳は増加傾向にあります。



<合計特殊出生率>

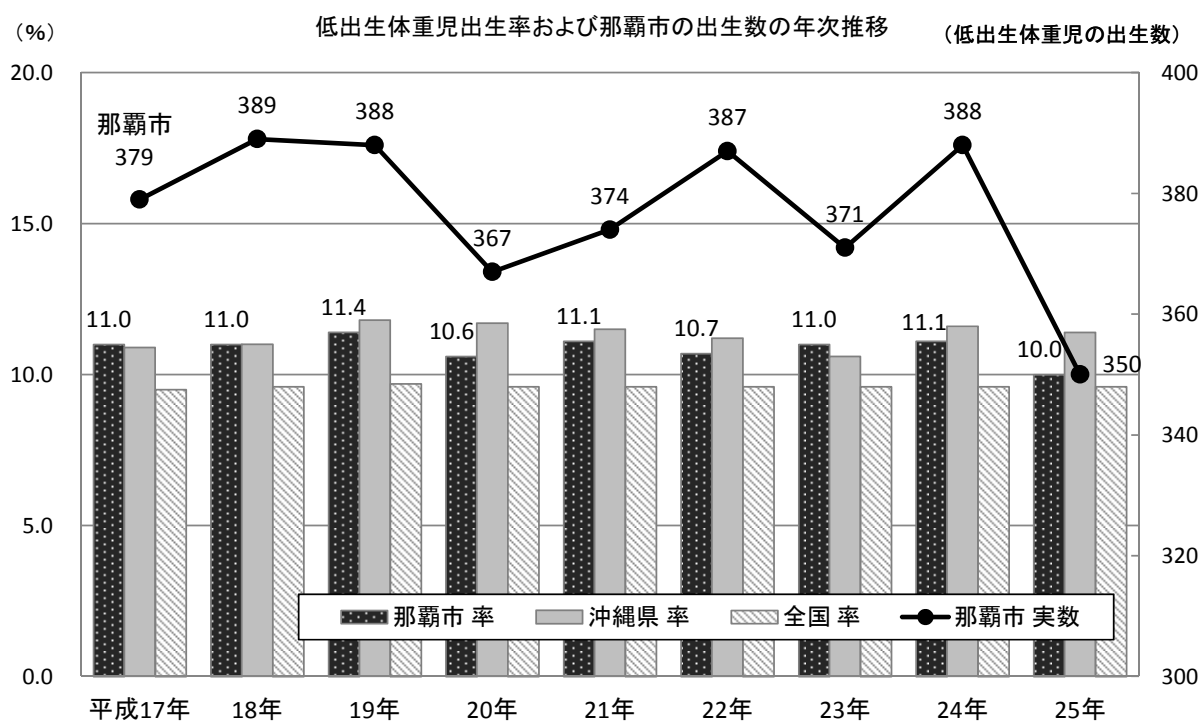
本市のH20 年～24 年の合計特殊出生率をみると、1.63 となっており、H15 年～19 年の値よりも増加しています。他の中核市（人口規模等から勘案し、5 地域を抜粋）と比較すると、豊田市（愛知県）の値と同様の傾向がみられました。全国的に高くなっていますが、沖縄県と比較すると、若干低い値となっています。



＜低出生体重児の出生率および出生数＞

本市のH25年の低出生体重児（2500g未満）の出生数は350人で、その割合は10.0%となっており、増減をしながら横ばいで推移しています。県と比較すると大きな差異はみられませんが、全国と比べると低出生体重児の出生率は高い状況が続いています。

	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
那覇市(率)	11.0	11.0	11.4	10.6	11.1	10.7	11.0	11.1	10.0
沖縄県(率)	10.9	11.0	11.8	11.7	11.5	11.2	10.6	11.6	11.4
全 国(率)	9.5	9.6	9.7	9.6	9.6	9.6	9.6	9.6	9.6
那覇市(出生数)	379	389	388	367	374	387	371	388	350



資料：地域保健・健康増進事業報告

③新生児・乳児死亡の状況

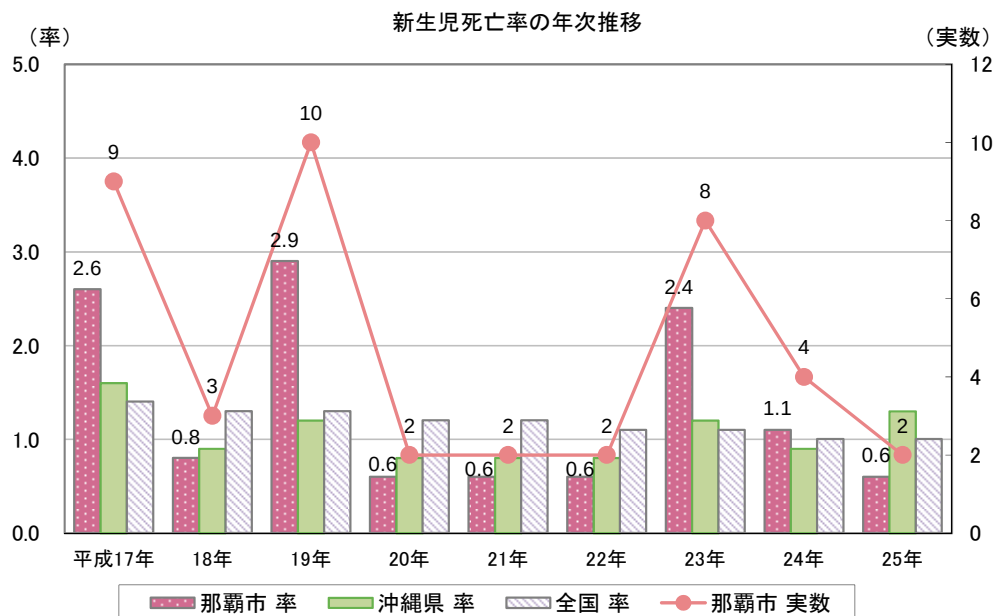
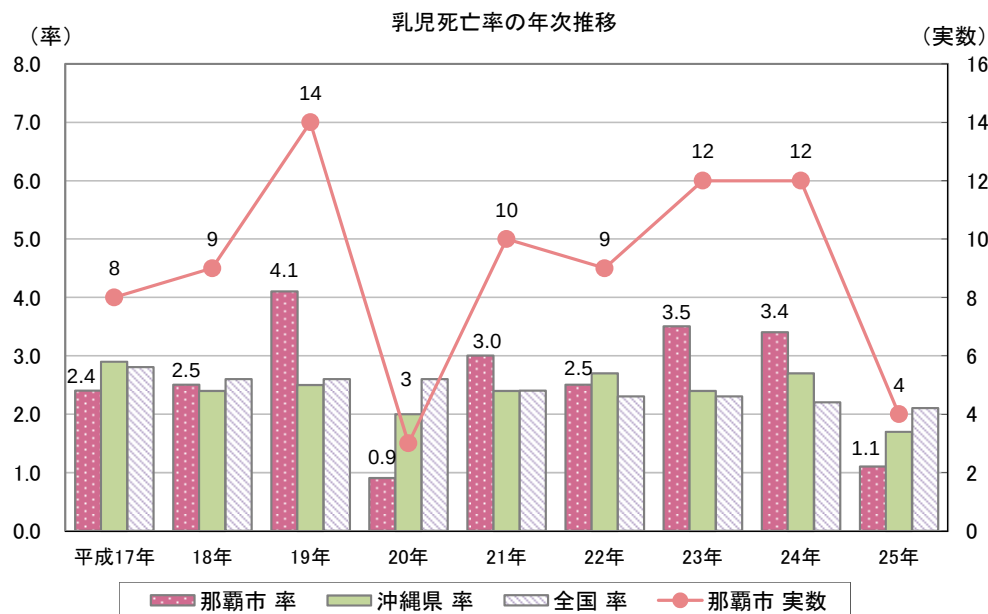
H25年は新生児死亡2件、乳児死亡4件となっており、それぞれの死亡率は県や全国の値を下回っています。しかし、死亡率の推移をみると増減を繰り返しており、国や県の値を上回る年もみられました。

＜新生児死亡の推移＞ 率：出産千対

	那覇市 (実数)	那覇市 (率)	沖縄県 (率)	全国 (率)
平成17年	9	2.6	1.6	1.4
平成18年	3	0.8	0.9	1.3
平成19年	10	2.9	1.2	1.3
平成20年	2	0.6	0.8	1.2
平成21年	2	0.6	0.8	1.2
平成22年	2	0.6	0.8	1.1
平成23年	8	2.4	1.2	1.1
平成24年	4	1.1	0.9	1.0
平成25年	2	0.6	1.3	1.0

＜乳児死亡の推移＞ 率：出産千対

	那覇市 (実数)	那覇市 (率)	沖縄県 (率)	全国 (率)
平成17年	8	2.4	2.9	2.8
平成18年	9	2.5	2.4	2.6
平成19年	14	4.1	2.5	2.6
平成20年	3	0.9	2.0	2.6
平成21年	10	3.0	2.4	2.4
平成22年	9	2.5	2.7	2.3
平成23年	12	3.5	2.4	2.3
平成24年	12	3.4	2.7	2.2
平成25年	4	1.1	1.7	2.1



資料：人口動態統計、沖縄県

④周産期死亡・死産の状況

H25年の周産期死亡率は5.1で18件となっており、H17年以降増減をしながら推移しています。ほぼ毎年、国の周産期死亡率よりも若干上回っています。

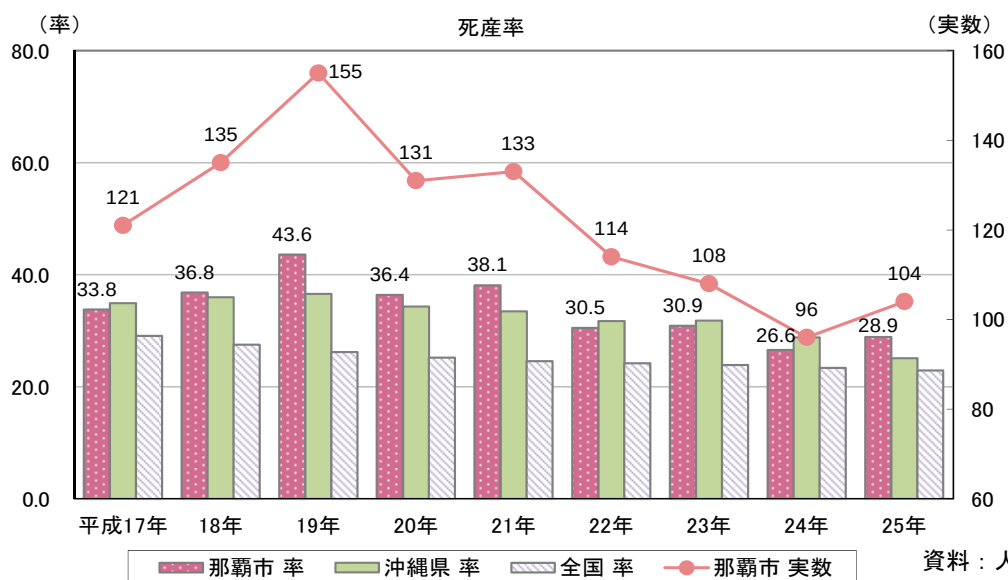
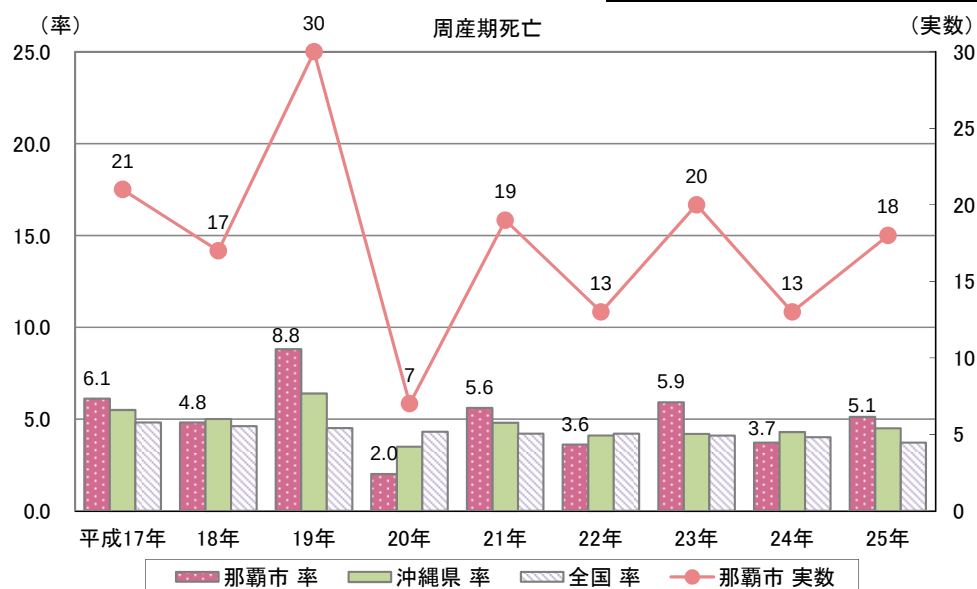
H25年の本市の死産率は28.9で、104件となっており、H19年以降増減をしながらも減少傾向にありますが、国よりも高率で推移しています。

＜周産期死亡の推移＞率：出産千対

	那覇市 (実数)	那覇市 (率)	沖縄県 (率)	全国 (率)
平成17年	21	6.1	5.5	4.8
平成18年	17	4.8	5.0	4.6
平成19年	30	8.8	6.4	4.5
平成20年	7	2.0	3.5	4.3
平成21年	19	5.6	4.8	4.2
平成22年	13	3.6	4.1	4.2
平成23年	20	5.9	4.2	4.1
平成24年	13	3.7	4.3	4.0
平成25年	18	5.1	4.5	3.7

＜死産の推移＞率：出産千対

	那覇市 (実数)	那覇市 (率)	沖縄県 (率)	全国 (率)
平成17年	121	33.8	34.9	29.1
平成18年	135	36.8	36.0	27.5
平成19年	155	43.6	36.6	26.2
平成20年	131	36.4	34.3	25.2
平成21年	133	38.1	33.5	24.6
平成22年	114	30.5	31.7	24.2
平成23年	108	30.9	31.8	23.9
平成24年	96	26.6	28.8	23.4
平成25年	104	28.9	25.1	22.9



資料：人口動態統計

⑤ 0歳～5歳未満の乳幼児の死亡原因

那覇市	乳幼児死亡	死因順位		
	実数	1位	2位	3位
平成17年	14	出産外傷(3)	心臓の先天奇形(2) その他の先天奇形及び変形(2)	不慮の事故(1) 妊娠期間及び胎児発育期に関連する障害(1) 心不全(1) 肺炎(1) その他循環器の奇形など(1) 染色体異常(1) その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機能障害(1) *その他(2)
平成18年	11	交通事故(2) 肺炎(2) 周産期に特異的な感染症(2)	心臓の先天奇形(1) 乳幼児突然死症候群(1) その他の不慮の事故(1) その他の尿路感染系の疾患(1) その他循環器の奇形など(1)	
平成19年	18	妊娠期間及び胎児発育期に関連する障害(2) 心臓の先天奇形(2) その他の先天性奇形及び変形(2)	その他の心疾患(1) ヘルニア及び腸閉塞(1) 胎児及び新生児の出血性障害及び血液性障害(1) その他循環器の奇形など(1) 染色体異常その他に分類されないもの(1) *その他(7)	
平成20年	0	-	-	-
平成21年	13	その他の循環器系の先天奇形(2) 敗血症(2)	その他の呼吸器系の疾患(1) ヘルニア及び腸閉塞(1) その他の周産期に発生した病態(1) その他の先天奇形及び変形(1) 染色体異常、他に分類されないもの(1) *その他(4)	
平成22年	13	心臓の先天奇形(4)	肺炎(1) 染色体異常、他に分類されないもの(1) 乳幼児突然死症候群(1) その他の感染症及び寄生虫症(1) 敗血症(1) *その他(4)	
平成23年	15	出産外傷(3)	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害(2) 心臓の先天奇形(2)	その他の悪性新生物(1) 中枢神経のその他の新生物(1) 周産期に特異的な感染症(1) その他の周産期に発生した病態(1) 神経系の先天奇形(1) *その他(3)
平成24年	16	染色体異常、他に分類されないもの(3) 乳幼児突然死症候群(3)	その他の先天性奇形及び変形(2)	その他の循環器系の先天奇形(1) その他の周産期に発生した病態(1) 周産期に特異的な感染症(1) 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害(1) 皮膚及び皮下組織の疾患(1) その他の消化器系の疾患(1) 心筋症(1) その他の神経系の疾患(1)

資料：沖縄県中央保健所「保健所活動概況」、H24年は「那覇市保健所事業概要」

⑥乳児死亡の原因

那覇市	乳児死亡	死因順位		
	実数	1位	2位	3位
平成17年	11	出産外傷(3)	心臓の先天奇形(2) その他の先天性奇形及び変形(2)	妊娠期間及び胎児発育期に関連する障害(1) 心不全(1) その他循環器の奇形など(1) 染色体異常(1)
平成18年	9	交通事故(2) 肺炎(1) 周産期に特異的な感染症(2)	心臓の先天奇形(1) 乳幼児突然死症候群(1) その他の不慮の事故(1) その他の尿路感染系の疾患(1)	
平成19年	14	妊娠期間及び胎児発育期に関連する障害(2) 心臓の先天奇形(2) その他の先天奇形及び変形(2)	その他の心疾患(1) ヘルニア及び腸閉塞(1) 胎児及び新生児の出血性障害及び血液性障害(1) その他循環器の奇形など(1) 染色体異常その他に分類されないもの(1) *その他(3)	
平成20年	3	※	※	※
平成21年	10	その他の循環器系の先天奇形(2)	敗血症(1) その他の呼吸器系の疾患(1) ヘルニア及び腸閉塞(1) 出産外傷(1) その他の先天奇形及び変形(1) その他の心疾患(1) *その他(2)	
平成22年	9	心臓の先天奇形(4)	その他の感染症及び寄生虫症(1) その他の消化器系の疾患(1) その他の周産期に発生した病態(1) 染色体異常、他に分類されないもの(1) 乳幼児突然死症候群(1)	
平成23年	12	出産外傷(3)	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害(2)	周産期に特異的な感染症(1) その他の周産期に発生した病態(1) 神経系の先天奇形(1) 心臓の先天奇形(1) その他の循環器系の先天奇形(1) *その他(2)
平成24年	12	乳幼児突然症候群(3)	その他の先天性奇形及び変形(2)	その他の周産期に発生した病態(1) 周産期に特異的な感染症(1) 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害(1) その他の消化器系の疾患(1) 心筋症(1) その他の神経系の疾患(1)

資料：沖縄県中央保健所「保健所活動概況」、H24 年は「那覇市保健所事業概要」

※平成 20 年の死因については統計なし

⑦乳児（1歳未満）の不慮の事故死について

本市の乳児の不慮の事故死については、H24年は0件となっておりますが、年によっては、数件発生しています。

	那覇市		沖縄県	
	実数	率	実数	率
H17年	1	7.1	6	11.1
H18年	3	27.3	14	29.2
H19年	0	0	10	18.5
H20年	0	0	2	4.54
H21年	0	0	2	3.7
H22年	1	7.7	6	3.7
H23年	0	0	4	6.55
H24年	0	0	1	—

資料：沖縄県 衛生統計年報、那覇市 保健所活動概況

⇒不慮の事故に分類される死因（交通事故／転倒・転落／不慮の溺死及び溺水／不慮の窒息／煙、火災への曝露／有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露／その他の不慮の事故）

⑧那覇市における乳幼児の救急搬送状況

本市の乳幼児の救急搬送の件数をみると、「一般負傷」によるものが最も多く、次いで「交通事故」となっています。「一般負傷」と「交通事故」は平成23年以降減少傾向にあります。

（件数）

	火災	水難	交通	一般負傷
H17年	2	0	44	96
H18年	2	0	51	102
H19年	0	0	44	107
H20年	0	0	34	134
H21年	2	1	31	86
H22年	1	2	48	106
H23年	0	1	48	141
H24年	0	0	31	132
H25年	2	1	25	119

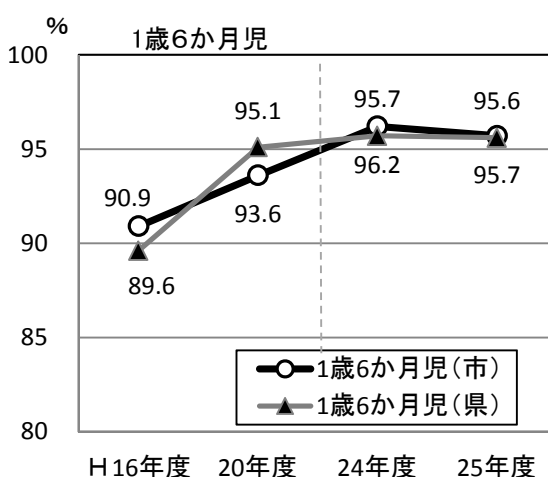
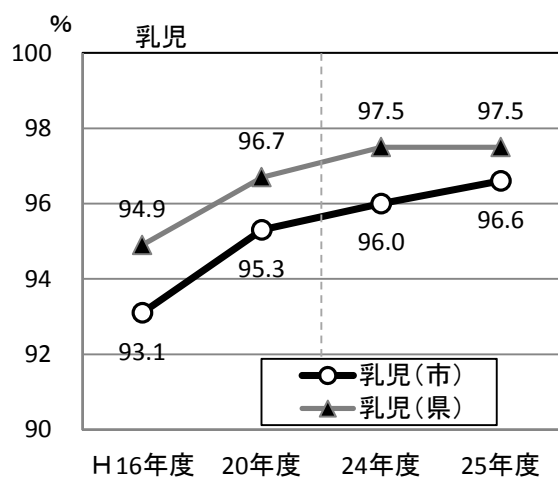
資料：那覇市消防年報

⑨車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合

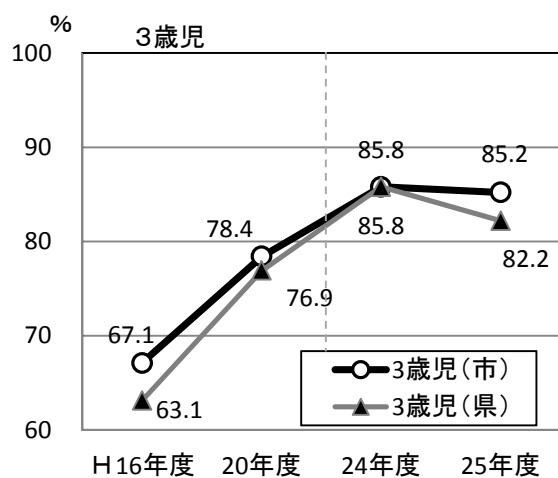
乳児・1歳6か月児・3歳児ともにチャイルドシートの使用率はそれぞれ上昇していますが、3歳児が80%台にとどまっています。

	平成16年度	平成20年度	平成24年度	平成25年度
乳児(市)	93.1	95.3	96.0	96.6
1歳6か月児(市)	90.9	93.6	96.2	95.7
3歳児(市)	67.1	78.4	85.8	85.2
乳幼児(県)	94.9	96.7	97.5	97.5
1歳6か月児(県)	89.6	95.1	95.7	95.6
3歳児(県)	63.1	76.9	85.8	82.2

資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）



資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）



⑩10代の人工妊娠中絶について

本市のH25年度的那覇市の10代の人工中絶件数は86件で、人工妊娠中絶実施率は9.8となっており、国や県の中絶実施率を上回っています。

※那覇市、沖縄県、全国10代の人工妊娠中絶実施率（15～19歳の女子人口千対）

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
那覇市	—	—	—	—	—	9.8（86件）
沖縄県	5.9	7.2	6.3	7.3	7.4	7.6
全国	7.6	7.3	6.9	7.1	7.0	6.6

資料：那覇市地域保健課、沖縄県と全国は衛生行政報告例（実施率の「20歳未満」は、分母に15～19歳の女子人口を用い、分子に15歳未満を含めた「人工妊娠中絶件数」を用いて計算）

平成22年度は、東日本大震災の影響により、福島県の相双保健福祉事務所管内の市町村が含まれていない

※沖縄県の件数（全中絶数に対する割合）（単位：件）

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
15歳未満	1	9	12	6	14
15歳	13	9	17	18	13
16歳	34	49	41	46	58
17歳	59	59	63	66	46
18歳	62	71	56	64	65
19歳	71	82	66	100	107
20歳未満合計	240（8.9%）	279（10.7%）	255（9.9%）	300（11.6%）	303（11.7%）
全中絶数	2,685	2,598	2,563	2,594	2,581

⑪10代の自殺について

本市の10代の自殺は、0件で推移している時期もありましたが、H21年以降、数件ずつ発生しています。

	沖縄県	那覇市
H17年	3	1
H18年	4	0
H19年	3	0
H20年	7	0
H21年	2	2
H22年	9	4
H23年	6	1
H24年	5	—

資料：衛生統計年報

(4) 妊婦健診に関する統計

妊産婦健診の結果をみると各年ともに約4割が有所見者となっています。有所見者のうち、最も多い項目は「貧血」となっています。

妊婦一般健康診査受診状況

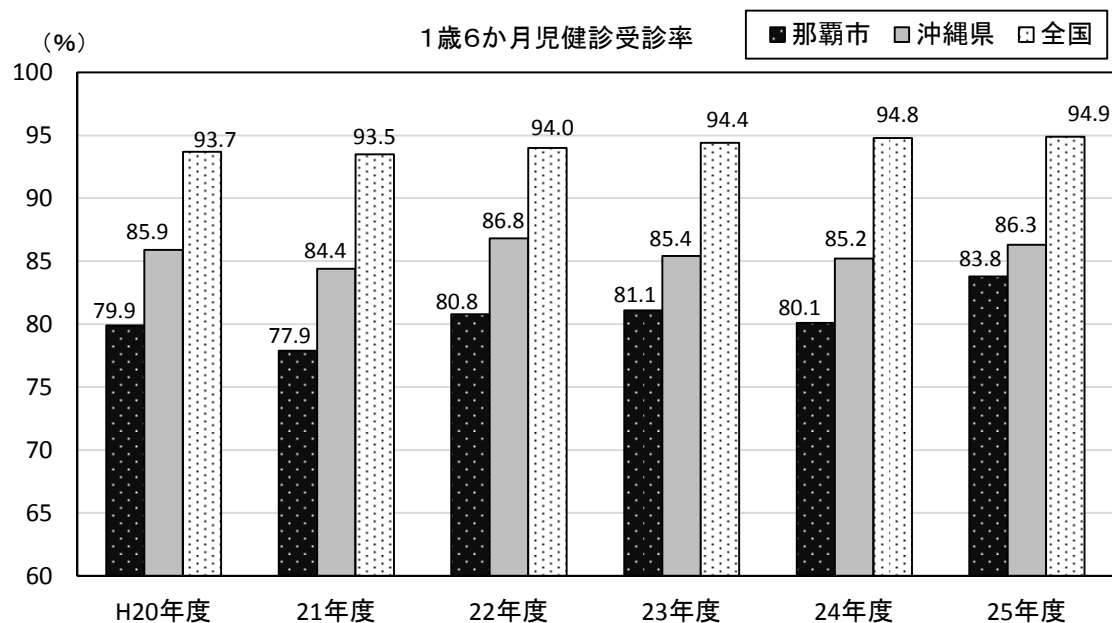
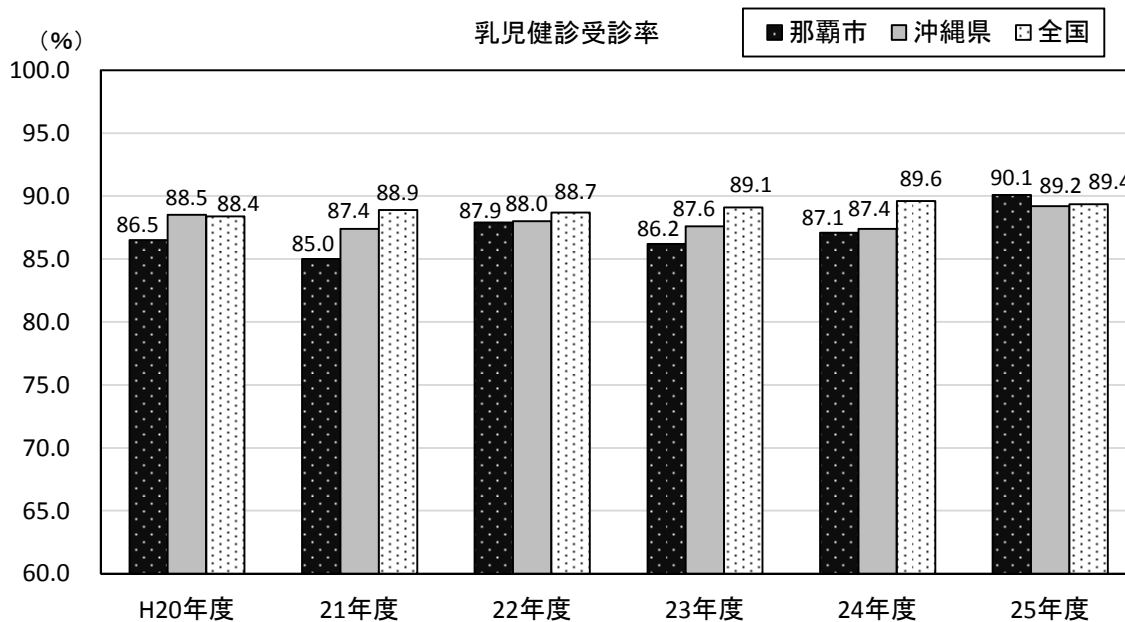
項目 年度		受診者数 (延数)	異常なし	有所見者数 (割合)		有所見者数(延数)						
						高血圧症候群	糖尿病	糖負荷検査	貧血	尿所見	その他	計
平成20年度	沖縄県	78,295	45,745	32,550	41.6	249	578	319	25,071	5,914	4,609	36,740
	那覇市	15,954	9,214	6,740	42.2	48	78	42	4,950	1,732	831	7,681
平成21年度	沖縄県	80,151	46,954	33,197	41.4	240	663	502	23,179	6,725	6,512	37,821
	那覇市	16,741	9,828	6,913	41.3	43	119	79	4,451	2,121	1,151	7,964
平成22年度	沖縄県	81,352	47,052	34,300	42.2	219	575	548	24,129	7,228	6,330	39,029
	那覇市	16,860	9,358	7,502	44.5	51	107	107	5,207	2,142	1,101	8,715
平成23年度	沖縄県	80,908	46,203	34,705	42.9	191	697	641	23,696	7,167	7,219	39,611
	那覇市	16,353	9,290	7,063	43.2	37	113	116	4,602	2,146	1,054	8,068
平成24年度	沖縄県	80,420	47,603	32,817	40.8	185	524	509	22,089	6,936	7,211	37,454
	那覇市	16,797	10,090	6,707	39.9	28	89	105	4,185	2,256	1,036	7,699

資料：沖縄県の母子保健（母子保健の主なる統計）沖縄県HP

(5) 乳幼児健診に関する統計

①乳幼児健康診査受診状況

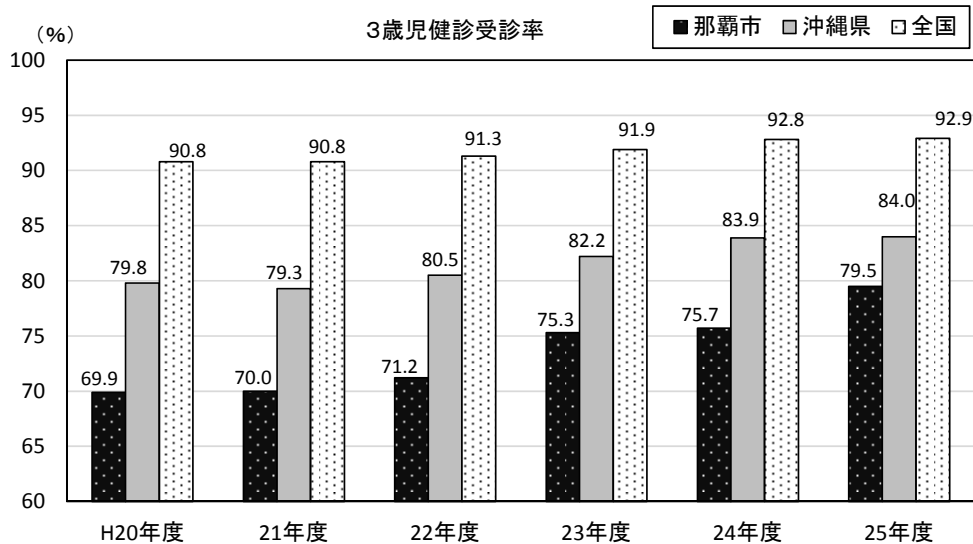
本市の乳幼児健康診査の受診率は、徐々に高くなってきていますが、県や国に比べると、低い状況にあります。特に1歳6か月児健診、3歳児健診の受診率が低い状況にあります。



資料：那覇市、県-乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

全国-地域保健・健康増進事業報告 平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県、福島県の一部の市町村が含まれていない。

受診率＝(一般健康診査受診実人員／健康診査対象人員)×100

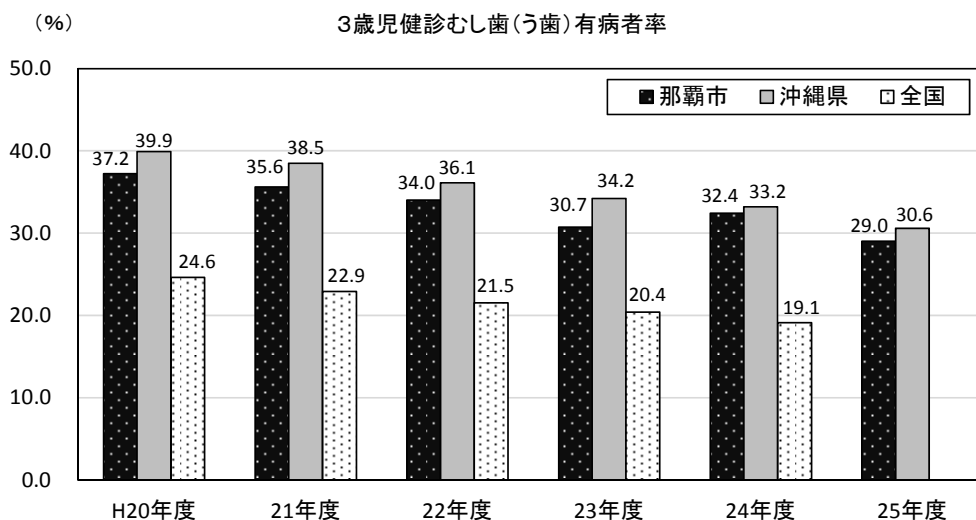
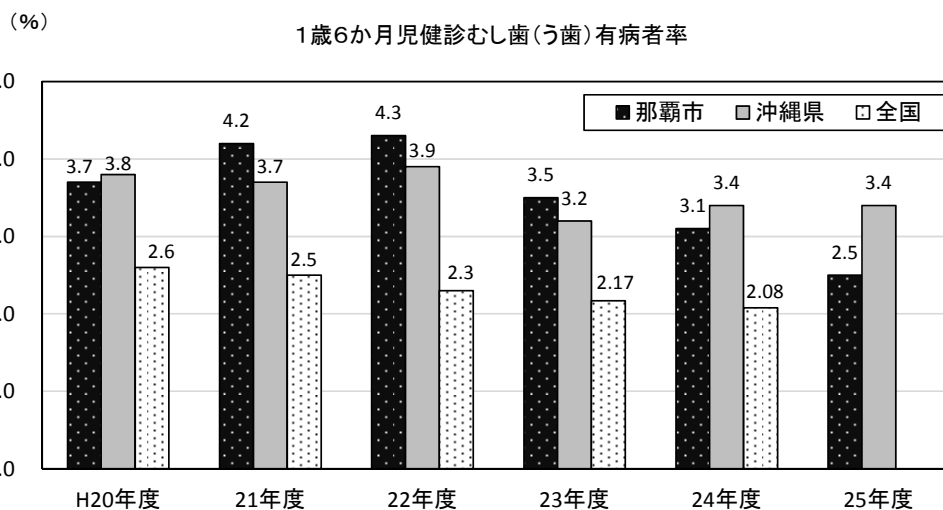


資料：那覇市、県-乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

全国-地域保健・健康増進事業報告 平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県、福島県の一部の市町村が含まれていない。受診率＝(一般健康診査受診実人員／健康診査対象人員)×100

②う歯(むし歯)有病者率

本市のH25年度の乳幼児歯科健診結果をみると、1歳6か月児で2.5%、3歳児で29.0%がむし歯となっています。徐々に減少はしているものの、全国と比較すると、高い割合で推移しています。



資料：那覇市、県-乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
全国-地域保健・健康増進事業報告

③予防接種の実施状況（1歳6か月児）

麻疹・風疹（MR）の予防接種については、流行阻止効果が期待できる接種率 95%を超え、高い接種率となっています。一方、BCG（結核）の予防接種や三種混合の予防接種については予防接種方法の変更等により接種率が低くなっています。（経年で比較する場合には注意が必要です。）

BCGの予防接種率

	H16年度	H20年度	H24年度	H25年度
那覇市	96.4	96.4※	95.8※	83.1※
沖縄県	90.7	98.3	97.2	97.3

※は那覇市市政概要より 予防接種を受ける年齢（3か月～6か月未満）

麻疹・風疹（MR）の予防接種率

	H16年度	H20年度	H24年度	H25年度
那覇市	86.4	93.0※	97.2※	96.1※
沖縄県	87.7	90.9	86.8	84.2

※は那覇市市政概要より 予防接種を受ける年齢：MR1期（1歳～2歳未満）

三種混合の予防接種率

	H16年度	H20年度	H24年度	H25年度
那覇市	65.7	91.8※	99.0※	27.4※
沖縄県	74.0	83.4	86.4	86.7

※は那覇市市政概要より 予防接種を受ける年齢（3か月～7歳6か月未満）

四種混合の予防接種率

	H25年度
那覇市	75.8※
沖縄県	—

注）三種混合については、H24年11月より不活化ポリオワクチン、四種混合ワクチンへ移行

資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）1歳6か月児健診より

※は那覇市市政概要より（予防接種を受ける年齢：BCG（3か月～6か月未満）／麻疹・風疹（MR）1期（1歳～2歳未満）／三種混合・四種混合（3か月～7歳6か月未満）

④ 3歳児健診における肥満児の割合

3歳児の肥満の割合について、市は毎年度県平均より低く、男児では3%前後で推移しています。女児については概ね2～3%台で推移しています。

		男(%)					女(%)				
		太り気味 +15%≤ ～<20%	やや太り過 ぎ+20%≤ ～<30%	太り過ぎ +30%≤	肥満度 計	BMI18.0≤	太り気味 +15%≤ ～<20%	やや太り過 ぎ+20%≤ ～<30%	太り過ぎ +30%≤	肥満度 計	BMI18.0≤
H21年度	沖縄県	2.6	0.8	0.2	3.7	2.9	3.1	1.4	0.2	4.6	3.0
	那覇市	1.9	1.0	0.1	3.0	2.0	2.2	0.6	–	2.7	1.2
H22年度	沖縄県	2.1	1.1	0.2	3.4	2.4	2.7	1.2	0.2	4.2	2.6
	那覇市	1.5	1.0	0.3	2.8	2.1	2.1	0.8	0.1	3.0	1.7
H23年度	沖縄県	2.0	0.8	0.2	3.0	2.2	2.9	1.2	0.1	4.3	2.7
	那覇市	2.2	0.4	0.1	2.7	2.0	2.1	0.7	–	2.8	1.5
H24年度	沖縄県	2.0	0.8	0.2	3.0	2.2	2.9	1.2	0.1	4.3	2.7
	那覇市	2.2	0.4	0.1	2.7	2.0	2.1	0.7	–	2.8	1.5
H25年度	沖縄県	2.4	0.8	0.2	3.4	2.8	2.9	1.0	0.2	4.1	2.3
	那覇市	2.0	0.8	–	2.8	2.2	2.9	0.9	0.1	3.9	2.0

資料：乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

⑤ 3歳児健診で21時台までに寝る子の割合

3歳児の21時台までに寝る子どもは、H25年度は58.1%となっており、さらに約4割の子どもが22時以降の就寝となっています。

	H16年度	H20年度	H24年度	H25年度
那覇市	32.4	59.0	57.4	58.1
沖縄県	32.7	62.9	56.1	58.0

資料：乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

⑥ 乳児健診における血色素値 11.0 g/dl 未満の割合

貧血の目安である血色素値 11.0 g/dl 未満の乳児について、那覇市は県に比べ毎年度高率となっており、H25年度は25.3%となっています。H23年度には2割を超え、徐々に増加しています。

	10.0 未満			10.0～10.9		
	沖縄県	那覇市		沖縄県	那覇市	
	率	率	実数	率	率	実数
H21年度	1.9	2.2	126	13.2	15.9	903
H22年度	2.0	2.1	127	13.1	15.4	944
H23年度	3.0	3.4	202	16.2	22.5	1,338
H24年度	3.0	3.5	211	17.4	22.7	1,353
H25年度	2.8	3.2	202	18.2	22.1	1,399

資料：乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

⑩子育てについて

子育てに関して不安がある保護者や、身近に相談できる人がいない保護者がみられます。

ア 子育てに不安がある保護者の割合

		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
乳児健診	那覇市	2.4	1.8	1.9	2.6
	沖縄県	1.9	1.5	1.8	2.0
1歳6か月児健診	那覇市	2.0	1.9	1.9	1.8
	沖縄県	1.6	1.4	1.5	1.7
3歳児健診	那覇市	2.5	2.2	2.2	1.9
	沖縄県	2.1	1.8	1.8	1.8

イ 子育てについて身近に相談できる人がいない保護者の割合

		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
乳児健診	那覇市	5.8	5.0	5.2	5.2	5.3
	沖縄県	4.3	3.8	3.9	3.7	3.7
1歳6か月児健診	那覇市	4.9	4.3	4.5	4.4	4.3
	沖縄県	3.7	3.5	3.5	3.6	3.3
3歳児健診	那覇市	4.3	3.4	3.4	3.4	3.9
	沖縄県	3.9	3.0	3.1	3.1	3.2

資料：乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)

⑪保護者の喫煙について

妊娠中の母親の喫煙については、H25 年度 4.6%となっています。また、子育て中の保護者の喫煙について母親は1 割弱、父親は4 割前後で推移しています。

ア 妊娠中の喫煙状況

妊娠中の 妊婦の喫煙率	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
	7.0%	6.8%	5.3%	4.6%	4.1%	4.6%

イ 母親の喫煙率

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県
乳児健診	7.0	7.1	5.5	6.6	6.1	7.1	5.5	6.6	5.3	6.0	6.0	6.5
1歳6か月児健診	9.2	10.4	7.6	8.2	9.2	8.9	7.6	8.2	7.3	7.9	7.0	7.8
3歳児健診	9.0	9.7	8.3	9.4	9.0	9.7	8.3	9.4	9.4	9.6	7.8	8.9

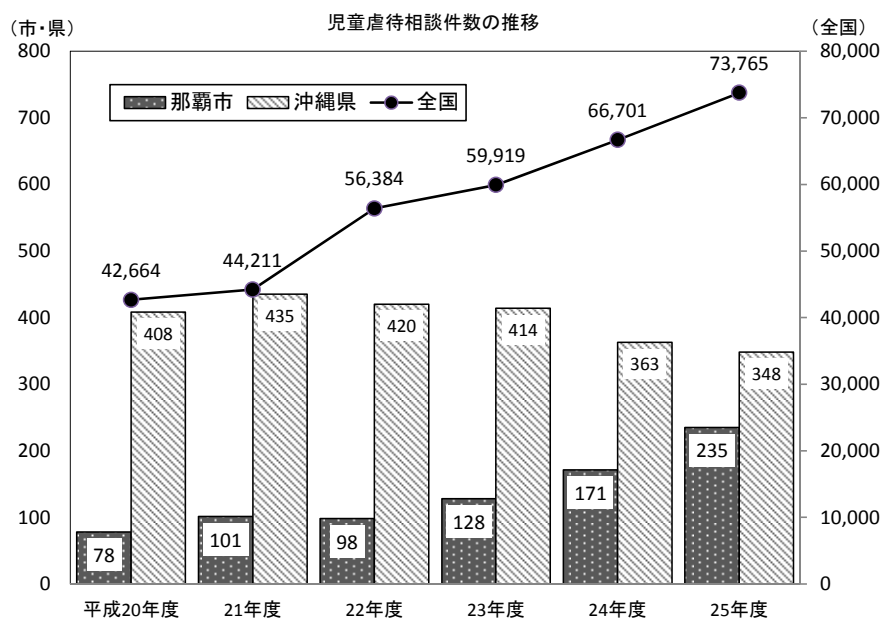
ウ 父親の喫煙率

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県	那覇市	沖縄県
乳児健診	48.8	51.4	41.5	43.0	41.7	43.6	41.5	43.0	40.7	42.4	41.4	43.4
1歳6か月児健診	40.4	47.7	39.8	41.9	40.4	43.7	39.8	41.9	39.1	42.3	39.8	42.0
3歳児健診	40.0	42.8	38.3	42.2	40.0	42.8	38.3	42.2	38.5	42.5	37.4	40.8

資料：乳幼児健康診査報告書（沖縄県小児保健協会）

⑫虐待相談件数に関する統計

H25 年度中に、本市子育て支援室が児童虐待相談として対応した件数は 235 件で、H20 年度以降最大の件数となっています。沖縄県は減少傾向にありますが、全国的にも増加しています。



資料：全国、沖縄県のデータについては、厚生労働省発表「児童相談所での児童虐待相談対応件数」（平成 25 年度の全国・県は速報値、平成 22 年度の全国の件数は福島県を除く集計）那覇市のデータについては、那覇市子育て支援室

用語と比率の解説

乳児死亡：生後1年未満の死亡

新生児死亡：生後4週（28日）未満の死亡

周産期死亡：妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡（生後1週間（7日）未満の死亡）をあわせたもの

死産：妊娠満12週以後の死児の出産

合計特殊出生率：15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

$$\text{出生率} = \frac{\text{年間出生数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$\text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{10月1日現在年齢別女子人口}} \right\} \text{15歳から49歳までの合計}$$

$$\text{低体重児出生率} = \frac{\text{年間2,500g未満出生数}}{\text{年間出生数（体重不詳を除く）}} \times 100$$

$$\text{乳児死亡率} = \frac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{新生児死亡率} = \frac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$\text{妊産婦死亡率} = \frac{\text{年間妊産婦死亡数}}{\text{年間出産数（出生数＋死産数）（又は年間出生数）}} \times 100,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{年間死産数（自然＋人工）}}{\text{年間出産数（出生数＋死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出生数＋妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

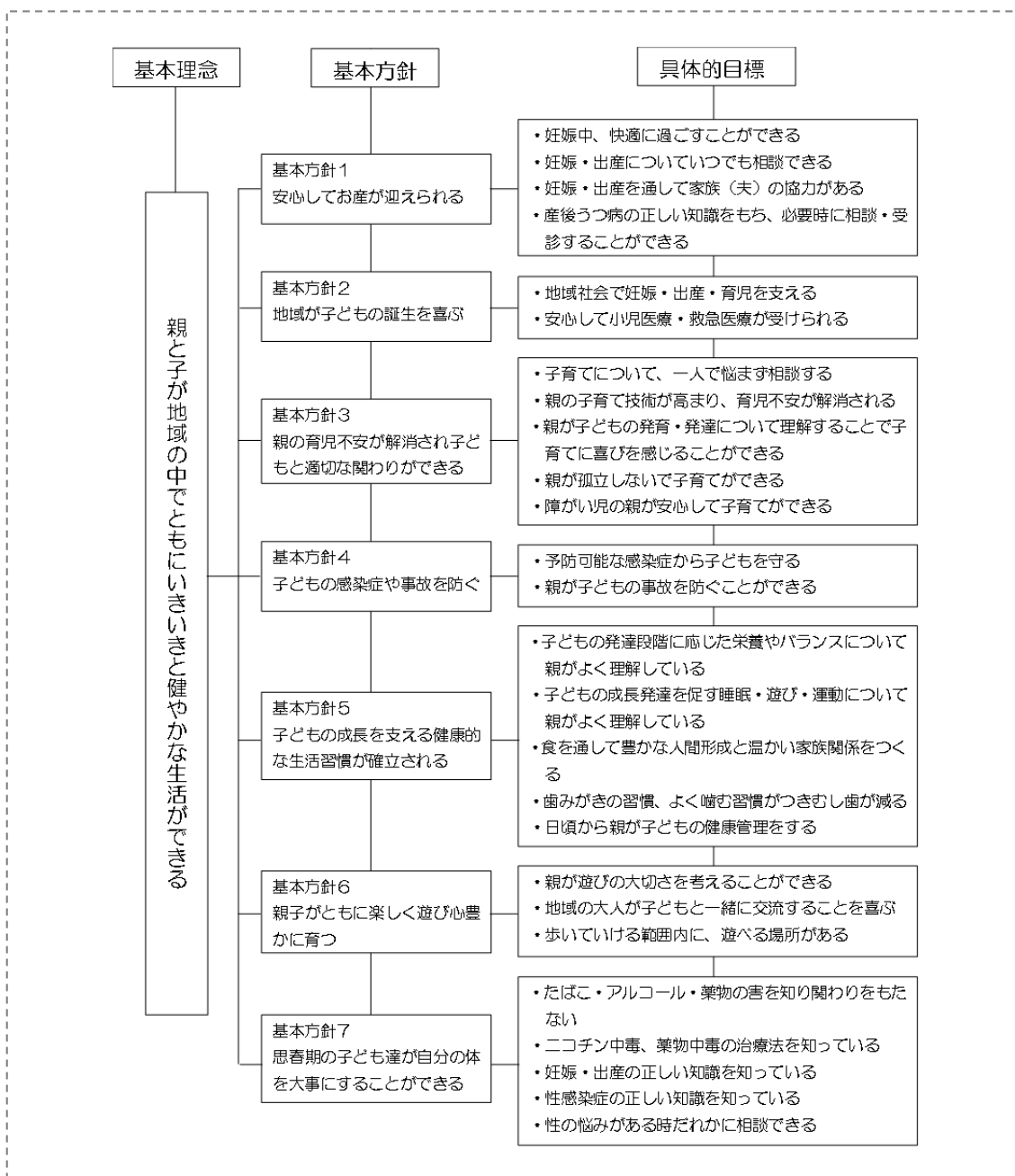
資料：沖縄県の母子保健

2. 「健やか親子なは」の総合評価と残された課題

(1) 評価の目的

「健やか親子なは」の最終評価は、H16年度に策定し、H21年度に中間評価を行った目標や指標についての達成状況や取り組みの進捗等を把握、評価するとともに、少子高齢化や晩婚化の進行、医療技術の進歩、母子保健事業等の実施現場の現状から把握した新たな課題を明らかにし、次期計画に反映させることを目的とします。

(参考) 「健やか親子なは」 体系図



(2) 評価の方法

最終評価にあたっては、指標の数値目標について、各種調査等から得られた直近のデータと策定時のデータを比較し、以下のいずれかに該当するかどうかについて総合評価を行いました。

A：目標達成（達成）	B：改善した（改善）	C：変わらない（変化なし）
D：悪くなっている（悪化）	E：評価できない（評価不可）	

しかし、そのままでは評価できない指標もあったため、考え方を整理し評価を行ったほか、必要に応じて指標名や過去の数値等について見直しを行いました。

また、策定時には設定指標が 49 ありましたが、その後中間評価、H24 年度評価、協議会での追加・変更等を経て、最終評価時には 48 指標となっています。

表－指標数の推移

	基本方針1	基本方針2	基本方針3	基本方針4	基本方針5	基本方針6	基本方針7	項目別合計
策定時	7	1	6	13	15	2	5	49
追加(代替指標)	3	4	1	3	3	3	2	19
削除	4	1	3	4	5	2	1	20
計	6	4	4	12	13	3	6	48

(3) 結果の概要

最終評価では 48 指標について、計画策定時や中間評価等、活用可能な値と最終評価の値を比較し、総合評価を行いました。その結果、改善した項目は 29 項目（目標を達成した：10 項目、20.8%、目標を達成していないが改善した 19 項目：39.6%）で全体の 60.4%を占めています。

また、変わらない項目は 5 項目（10.4%）、悪くなっている項目は 1 項目（2.1%）、評価できないが 13 項目（27.1%）となっています。

表－最終評価における具体的目標別の達成状況

		基本方針1	基本方針2	基本方針3	基本方針4	基本方針5	基本方針6	基本方針7	項目別合計
改善した	目標を達成した	2		1	1	1	2	3	10 20.8%
	目標を達成していないが改善した	3	3		1	9	1	2	19 39.6%
変わらない		1		3		1			5 10.4%
悪くなっている								1	1 2.1%
比較困難	評価できない		1		10	2			13 27.1%
計		6	4	4	12	13	3	6	48

また、活動主体別でみると「改善した（達成した＋達成していないが改善した）」項目は、『保健水準の指標』で 8 項目中 4 項目、『住民自らの行動指標』では、31 項目中 18 項目、『行政・関係団体等の取組みの指標』では 9 項目中すべての項目が「改善した」となっています。保健水準の指標で、悪化した項目も 1 項目みられます。

表一最終評価における活動主体別の達成状況

		保健水準の指標 8項目	住民自らの行動の 指標 31項目	行政・関係団体等の 取組みの指標 9項目	項目別合計 48項目
改善 した	目標を達成した	0	4	6	10
	目標を達成していないが改善した	4	14	3	21
変わらない		3	2	0	5
悪くなっている		1	0	0	1
比較 困難	評価できない	0	11	0	11
計		8	31	9	48

目標指標の達成状況

<基本方針 1：安心してお産が迎えられる>

目 標 指 標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①代替指標：「妊娠中や出産・育児について相談、協力できる人がいる」と答えた妊婦の割合	98.1% ※H23 年度	99.4%	増加	達成
②「妊娠中は定期的に妊婦健診を受けていた」と答えた妊婦の割合	93.4%	94.6% ※H26 年度	99%	変化なし
③妊娠中の妊婦の喫煙率	12.4%	4.6%	0%	改善
④妊娠中の妊婦の夫の喫煙率	56.3%	41.3%	28%	改善
⑤追加指標 A：11 週以内の妊娠届出率	74.7%	88.1%	90%	改善
⑥追加指標 B：妊婦健診受診率	73.8% (10.3 回) ※H21 年度	82.0% (11.5 回)	増加	達成

<基本方針 2：地域が子どもの誕生を喜ぶ>

目 標 指 標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①「近所の人といつもあいさつを交わす」と答えた人の割合	38.4%	未調査	増加	評価不可
②追加指標 A：「かかりつけ医を持っている」と答えた人の割合	乳児健診	80.0%	100%	改善
	1 歳 6 か月健診	93.7%		
	3 歳児健診	93.1% ※H20 年度		
③追加指標 B：「子育て支援センターの数及び利用人数」	数：5 利用人数： 36,150 ※H20 年度	数：7 利用人数： 52,135	増加	改善
④追加指標 C：「つどいの広場の数及び利用人数」	数：7 利用人数： 25,290 ※H20 年度	数：10 利用人数： 26,970	増加	改善

<基本方針 3：親の育児不安が解消され子どもと適切な関わりができる>

目 標 指 標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①乳児健診で「身近に相談できる人がいる」と答えた人の割合	94.0%	94.6%	97%（付帯 条件として受 診率を下げな い）	変化なし
②1 歳 6 か月児健診で「身近に相談できる人がいる」と答えた人の割合	94.5%	95.4%		変化なし
③3 歳児健診で「身近に相談できる人がいる」と答えた人の割合	95.8%	95.9%		変化なし
④追加指標 A：障がい児が利用できる施設数 （児童デイサービス事業所数）	15	142	増加	達成

<基本方針 4：子どもの感染症や事故を防ぐ>

目 標 指 標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①、②代替指標：麻疹・風疹（MR）の予防接種率	86.4%	96.1%	95%以上	達成
③BCGの予防接種率（1 歳 6 か月児健診）	96.4%	※83.1% 接種方法変更	95%以上	評価不可
④代替指標：DPT の予防接種率 1 期の 3 回接種済 （1 歳 6 か月児健診）	65.7%	※27.4% 接種方法変更	95%以上	評価不可
⑤ポリオ予防接種率 2 回接種済（3 歳児健診） （※H24.9～不活化ポリオ開始。H24.11～4 種混合開始） 単純比較出来ないため評価出来ず	95.8%	※70.8% 不活化ポリオ 1 期 3 回 接種済み →4.8%	95%以上	評価不可
⑥子どもの事故防止として、「遊んでいる時の安全確認をしている」と答えた人の割合	84.2%	※94.2% 参考値	90%以上	評価不可
⑦子どもの事故防止として、「熱いものは手の届かない所へ置いている」と答えた人の割合	82.9%	※93.2% 参考値	90%以上	評価不可
⑧子どもの事故防止として、「薬等、ハサミは手の届かない所へ置いている」と答えた人の割合	65.3%	※79.7% 参考値	90%以上	評価不可
⑨子どもの事故防止として「階段・段差で落ちないように配慮している」と答えた割合	46.8%	※36.1% 参考値	50%以上	評価不可
⑩子どもの事故防止として、「浴槽の水を貯めない」と答えた人の割合	43.0%	未調査	50%以上	評価不可
⑪子どもの事故防止として「浴室のドアをきちんとしめる」と答えた人の割合	24.6%	※33.1% 参考値	50%以上	評価不可
⑫子どもの事故防止として、「自動車の中にひとりしない」と答えた人割合	67.7%	※92.2% 参考値	100%	評価不可
⑬「車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合	乳児健診	93.1%	100%	改善
	1 歳 6 か月健診	90.9%		
	3 歳児健診	67.1%		

<基本方針 5：子どもの成長を支える健康的な生活習慣が確立される>

目 標 指 標	策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①代替指標：1 歳 6 か月児健診で「朝食は毎日食べている」と答えた人の割合	統計なし	1 歳 6 か月健診 ⇒96.8% 3 歳児健診 ⇒95.6%	(増加)	変化なし
②1 歳 6 か月児健診で「三食きちんと食べさせることに気をつけている」と答えた人の割合	59.8%	未調査	増加	評価不可
③3 歳児健診で「三食きちんと食べさせることに気をつけている」と答えた人の割合	72.6%	未調査	増加	評価不可
④代替指標：1 歳 6 か月児健診で「食事やおやつの時間は決まっている」と答えた人の割合	統計なし	84.8%	(増加)	改善
⑤代替指標：3 歳児健診で「食事やおやつの時間は決まっている」と答えた人の割合	統計なし	84.8%	(増加)	改善
⑥父親の喫煙率	乳児健診	56.2%	減少	改善
	1 歳 6 か月健診	52.9%		
	3 歳児健診	52.6%		

目 標 指 標		策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
⑦母親の喫煙率	乳児健診	11.4%	6.6%	減少	改善
	1歳6か月健診	12.4%	7.0%		
	3歳児健診	12.0%	7.8%		
⑧乳児健診の受診率		82.1%	90.1%	88.5% (H20年度 県平均)	達成
⑨1歳6か月児健診の受診率		76.4%	83.8%	87.9% (H20年度 県平均値)	改善
⑩3歳児健診の受診率		69.4%	79.5%	79.8% (H20年度 県平均値)	改善
⑪1歳6か月児健診でむし歯になっている子の割合（う歯有病者率）		6.5%	2.5%	減少	改善
⑫3歳児健診でむし歯になっている子の割合（う歯有病者率）		37.7%	29.0%	20.0%	改善
⑬3歳児健診で21時台までに寝る子の割合		29.4%	58.1%	60.0%	改善

<基本方針6：親子がともに楽しく遊び心豊かに育つ>

目 標 指 標		策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①追加指標 A：ブックスタートの実施率		統計なし	87.1%	増加	達成
②追加指標 B：子育て支援センターの数及び利用人数		統計なし	数：7 利用人数： 52,135	増加	達成
③追加指標 C：つどいの広場の数及び利用人数		統計なし	数：8 利用人数： 2,6970	増加	改善

<基本方針7：思春期の子ども達が自分の体を大事にすることができる>

目 標 指 標		策定時 H16	現状 H25	最終 目標	達成 状況
①中高生の喫煙経験率		12.9%	6.4%	0%	改善
②「酒を飲んだことがある」と答えた中高生の割合		37.9%	20.5%	0%	改善
③「避妊方法を知っている」と答えた中高生の割合		46.6%	56.0%	増加	達成
④「性感染症（STD）について学習したことがある」と答えた中高生の割合		59.5%	84.8%	増加	達成
追加指標 A：思春期教室（性に関する授業）の開催回数		統計なし	小学校 4 中学校 14 その他 1	増加	達成
追加指標 B：10代の人工妊娠中絶率（15～49歳女子人口千対）		全国 10.5 沖縄 7.2	全国 6.6 沖縄 7.6	6.5 (全国目標)	悪化

(4) 基本方針ごとの総合評価と課題

基本方針1：安心してお産が迎えられる

1) 総合評価

①妊娠・出産・育児についての相談体制

- ・妊娠・出産・育児についての相談体制は、指標①「妊娠中や出産・育児について相談・協力できる人がいる」と回答している妊婦の割合が、H25年度には99.4%に達し、高い値であることから充実してきていると考えられる。その背景として、H17年度より実施している親子健康手帳交付時における保健師等による面接相談・保健指導の導入や、H21年度より実施している妊産婦栄養相談、産婦人科等医療機関における、マタニティー教室や助産師外来等の取り組みが行われたことがあげられる。また、子育て支援センター等では、妊婦を対象に育児イメージを持ってもらえるようプレママとしての受け入れも進んでおり、各機関が連携を意識した取り組みを推進している。

②妊婦の健康管理

- ・妊婦の健康管理に関しては、指標②「妊娠中の妊婦の喫煙率」、指標③「妊娠中の妊婦の夫の喫煙率」、指標④「11週以内の妊娠届出率」が、経年的に改善してきているものの、目標値に達していない状況にあるため、母体や胎児の健康管理、低出生体重児の予防の点では、引き続き取り組みが必要である。特に、10代妊婦の喫煙率が高いことや、低出生体重児の割合が、全国平均より高い（H25年：全国9.58%、沖縄県11.4%、本市10.0%）ことから、妊婦の健康管理については、妊婦健診の結果や、H25年度に市町村移譲業務となった「低出生体重児の届出」の分析と、妊婦食習慣調査（H25年度）や妊婦歯科健診（H26年度）等の関連した対策を継続しながら、取り組みを工夫する必要がある。
- ・指標⑤「妊婦健診受診率」は、H25年度82%（11.5回）で、公費負担の回数が14回になったH21年度から経年的にみても増加している。妊婦の受診に関する経済的負担の軽減は図られてきているが、妊娠届出を妊娠20週以降に出される方が、届出者の約2%いることから、十分な健康管理がされるための早期の妊娠届出に対する周知は、今後必要である。

③産後の体調やメンタル面の管理

- ・産後うつ病の早期発見と予防について、指標は設定していないものの、親子健康手帳交付時には、マタニティブルーや産後うつ病の周知や、医療機関の支援依頼等で個別の産婦支援を実施している。実際の産後うつ病のり患状況等の把握がされていないため、今後の検討が必要である。メンタル面の健康管理では、精神科等との連携のもと、支援の工夫が必要である。

2) 残された課題

①出産・育児についての相談体制

- ・「妊娠・出産・育児について相談・協力できる方がいない妊婦」が少なからずいることに関しては、特に初産婦、転入者等個々の状況に対応できるように、保健指導や支援を工夫する必要がある。
- ・また、妊娠届出が 12 週以降、特に 20 週以降の妊婦の中で、「産むか迷った」等望まない妊娠に関しては、産後の育児に向けても、こども部門との連携（特定妊婦）を行いながら、切れ目のない支援体制を組む必要がある。
- ・妊娠中や育児での協力（者）に関しては、核家族化に伴い、社会資源の活用も増えてきているため、社会資源の活用に関する周知を工夫する必要がある。
- ・女性が自身のライフステージにあわせて、妊娠について相談できる場、知識を得る機会等が、十分周知されていない。また、本市の女性の健康づくり事業も H25 年度より実施したところであり、さらに充実させる必要がある。

課題ポイント：20 週以降の妊娠届出者への相談を充実。

望まない妊娠、経済面等個々の環境に応じた、育児への切れ目のない支援

②妊婦の喫煙、その夫の喫煙

- ・平成 25 年度妊婦の喫煙率が 4.6%、その夫の喫煙率が 41.3%となっており、各目標値に至らないことを踏まえ、今後の課題として取り組む必要がある。
- ・妊娠中は、母体や胎児への影響を考え、妊娠を機に喫煙をやめた方が約 12%いることから、個々人に応じた妊娠中に活用できる禁煙外来等の情報提供や、産後も引き続き禁煙できるよう保健指導が十分に行われる必要がある。
- ・10 代妊婦の喫煙率をみると、年齢ごとにばらつきがみられるが、H25 年度の 10 代妊婦の喫煙率は 8.2%となっており、全妊婦の喫煙率 4.6%の約 2 倍となっていることから、思春期保健や健康づくり事業等との対策と連携して取り組みを行う必要がある。
- ・夫の喫煙に関しては、直接的に助言・保健指導できる機会が少ないため、健康づくり事業の壮年期対策との連携を意識して取り組む必要がある。

課題ポイント：妊娠中の喫煙対策、妊娠中に禁煙できてもその後の喫煙に移行しない指導

10 代妊婦の喫煙率、思春期保健対策との連携

妊婦の夫、家族の喫煙率、健康づくり事業との連携

③妊婦の健康管理

- ・「11 週以内の妊娠届出」について、H25 年度は 88.1%と経年的に増加傾向であるが、20 週以降の妊娠届出者が約 2%おり、その理由の分析を行い、相談体制や周知をさらに工夫する必要がある。
- ・妊婦健診受診率に関しては、H25 年現在 82.0%（11.5 回）であり、増加傾向にあるものの、その健診結果に基づく妊婦への保健指導は、医療機関に任せている現状である。妊娠性高血圧症候群

や妊娠糖尿病が、母体へ影響するだけでなく、早産や低出生体重児等の要因となることから、健診結果の分析を行い、医療機関と連携して予防対策を検討する必要がある。

- ・低出生体重児は、H25 年の国 9.58%に対し、本市 10.0%と、経年的にも 10%～11%で推移し、改善が見られないことに関しては、40 歳以上の高齢出産の割合が多くなってきているなどがその要因の 1 つと考えられる。今後、予防対策を検討する基礎資料として、H25 年度より市町村業務として移譲された「低出生体重児の届出」や「未熟児養育医療」の分析、H25 年度に実施した妊婦の食生活調査の結果についても分析を行う必要がある。加えて、H26 年度実施の妊婦歯科健診による口腔ケアは、低出生体重児の予防対策の一つであるため、それらの事業も並行して取り組んでいく必要がある。

課題ポイント：妊婦健診受診状況把握、健診結果などからのフォローの充実

④産後の健康管理

- ・マタニティブルーや産後うつ病に関しては、り患状況の把握を行い、産婦人科や精神科・心療内科との連携がスムーズにされるような対策が必要である。
- ・産後うつ病の他に、産後にメンタル面に課題のある産婦に関しても、心療内科等との連携、育児面では、社会資源の活用が拡大される取り組みが必要である。

課題ポイント：マタニティブルーや産後うつ病等の把握不足と対策不足、関係機関との連携不足

基本方針 2：地域が子どもの誕生を喜ぶ

1) 総合評価

- ・具体的目標の一つである、「地域社会で妊娠・出産・育児を支える」ために、親子が生活の拠点である地域に関心やつながりが持て、必要な社会資源が活用できるような働きかけや様々な取り組みがされてきた。
- ・指標として設定した「近所の人といつもあいさつを交わすと答えた人の割合」は、調査の質問方法が異なることから評価できないが、H26 年度の調査結果をみると、「お互い助け合える関係」11.3%、「あいさつを交わす程度」74.5%と、交流の程度は異なるものの、約 8 割の人が地域の人と何らかの繋がりを持っていることがわかった。しかし、「お互い助け合える関係」を築いていと回答した保護者は、1 割程度となっている。
- ・一方、「安心して小児医療・救急医療が受けられる」ことに対する指標とした、乳幼児健診時に「かかりつけ医を持っていると答えた人の割合」は、中間評価時からの比較をみると、乳児、1 歳 6 カ月児、3 歳児と、どの健診時点でも増加しており改善していると評価できる。
- ・母子保健推進員が、乳幼児健診や母子保健事業等にも関わっており、地域で様々な取り組みを展開しているが、人材の確保が課題となっている。
- ・那覇市立病院が「24 時間 365 日子どもの事故・疾病の治療ができる小児救急医療体制の充実」に取り組んでいることで、子育て中の親が安心して小児医療・救急医療に繋がっていると思われる。

2) 残された課題

- ・地域の中で、妊産婦や乳幼児の保護者が孤立せず、隣近所で声をかけあう環境づくりや必要な時に対応ができるよう、かかりつけ医を含めた見守り体制等の検討が今後必要である。
- ・地域に根差した取り組みを行う母子保健推進員等の確保とさらなる質の向上のための取り組みの充実が引き続き求められる。

基本方針3：親の育児不安が解消され子どもと適切な関わりが出来る

1) 総合評価

- ・育児に対する相談としては、乳幼児健診会場や保健師等による電話・来所相談や訪問相談等を実施している。
- ・地域では、子育て支援センターや児童館、つどいの広場等も親子が利用し、相談できる場となっており、保育園や幼稚園においても子育て家庭へ、園庭を開放し交流や育児相談等の充実を図りながら対応をしている。また、障がい児に対しては、療育センター等で専門家による相談を実施している。
- ・このような中、乳幼児健診時の回答では、身近に相談できる人がいると答えた人の割合が95%前後となっており、大部分の方は、相談できる人がいることがうかがえた。反面、相談できない人がおよそ5%前後いることから、引き続き、子育て中の親と子どもが地域の中で孤立しないための、支援の検討が必要である。
- ・妊娠中・産後の育児不安に対する支援に関しては、関係機関や医療機関等より、ハイリスク支援依頼を通して、把握するシステムができているが、都市化、核家族化の進行に伴い今後も増加する事が予想されることから、関係機関等との連携の強化が求められる。

2) 残された課題

- ・母子保健事業は妊娠期や乳幼児期まで展開しており、不安を抱える親とその子どもを速やかに把握し、どのような育児不安があるのか、またその中で発達障がい等をはじめとする育てにくさを感じる親へ早期支援等の検討を行う必要がある。
- ・育児不安等をもつ親を孤立させないような地域の見守り体制や虐待の防止、早期発見、関係課と連携した支援体制等の検討が必要である。
- ・障がい児等に対しては、H25年度より、中核市として慢性疾患をもつ子どもへの支援も開始した事により、保育園や幼稚園等、関係各課が連携して切れ目のない支援が受けられる体制づくりが必要である。

基本方針 4：子どもの感染症や事故を防ぐ

1) 総合評価

①予防接種について

- ・予防接種率は一部について増加している。種類ごとにみると、
 - ◇麻疹・風疹（MR）の予防接種率（1歳児）は、策定時（86.4%）、H25年度（96.1%）と目標を達成している。
 - ◇結核（BCG）の予防接種率は、策定時（96.4%）、H25年度（83.1%）と低くなっているが、接種方法等の変更があり評価できない。
 - ◇ジフテリア・百日せき・破傷風（DPT）の予防接種率は、策定時（65.7%）、H25年度（27.4%）と大きく低下しているが、接種方法等の変更があり評価できない。
 - ◇小児まひ（ポリオ）予防接種率は、策定時（95.8%）、H25年度（75.8%）となっている。H24.11月より、不活化ポリオワクチン及び、4種混合ワクチンに移行したため比較ができない。
- ・麻疹・風疹の予防接種が改善された理由として、関係機関の普及啓発の成果や、集団接種から個別接種へ移行し受けやすい環境ができたことや、予防接種への関心が高まったことがあげられる。特に麻疹・風疹（MR）に関しては、H13年より「麻疹ゼロプロジェクト」として全県あげて取り組んだことが改善の大きな要因と考えられる。

②事故予防について

- ・子どもの事故予防の意識啓発の取り組みが必要。
 - 具体的目標「親が子どもの事故を防ぐことが出来る」に対し、現時点で評価できる指標は、「指標⑤：車に乗る時はチャイルドシートを使用していると答えた人の割合（乳児健診、1歳6カ月児健診、3歳児健診）＜目標：100%＞」となっている。
- ・策定時は、乳児健診 93.1%、1歳6カ月健診 90.9%、3歳児健診 67.1%となっており、H25年度の集計をみると、乳児健診 96.6%、1歳6カ月健診 95.7%、3歳児健診 85.2%と、どの健診においても改善している。
- ・改善の理由として、保健師等による訪問時、保健所窓口での相談時、乳幼児健診時等による普及啓発や関係機関の普及啓発の成果等があげられる。
- ・その他の要因としては、「那覇市健やか親子なは」後期の重点課題の1つとして「子どもの事故予防」について取り上げて取り組んだことがあげられる。

2) 残された課題

①予防接種について

- ・集団として流行阻止効果が期待できる接種率 95%以上を目指して引き続き啓発、対策を検討する必要がある。
- ・「日本脳炎」、「Hib」「肺炎球菌」「水痘」「流行性耳下腺炎」「B 肝」「ロタ」について、定期接種に関しては、指標として追加し、接種勧奨に取り組む必要がある。

②事故予防について

- ・チャイルドシートの正しい使用の徹底を図るとともに、H26 年度に実施した乳幼児健診アンケート調査から、予防対策の配慮がされていない項目（うつぶせ寝をさせない／浴室のドアの工夫／階段・段差への対応）がみられることから、引き続き、健診会場等での保護者に対する効果的な啓発活動の推進が求められる。
- ・事故予防の指標項目の検討が必要である。
- ・本市の乳幼児の不慮の事故による死亡数は、策定時（H17 年）1 件、H18 年 3 件、H19 年 0 件、H20 年 0 件、H23 年 0 件と、近年、不慮による死亡事故が発生していないことから、引き続き、事故を未然に防ぐ対策の周知が求められる。

今後も「健やか親子パンフレット」等を用い、事故予防に必要な対策の確認や普及啓発の継続が必要である。

基本方針 5：子どもの成長発達を支える健康的な生活習慣が確立される

1) 総合評価

- ・乳幼児健診の受診状況は、各種健診ともに受診率は増加しており、これまでのハガキ再通知や未受診者訪問、保育施設との連携、健診会場での待ち時間の解消などの取り組みが大きく影響したといえる。しかし、年齢を重ねる毎に受診率の低下がみられ、また全国や沖縄県の受診率には届いていない状況である。今後も保護者や保育施設等への周知徹底、未受診者分析を含めた対策が必要である。
- ・う歯有病率は、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診ともに減少しており改善を認める。1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診でのフッ素塗布導入、2 歳児歯科健診、乳児後期健診で歯科衛生士を配置するなど、早い時期から保護者の意識付けを行っている。また、健診会場では、栄養士による栄養相談や、歯科医院への紹介状発行などを行い、保護者への普及啓発を積極的に行っている。関係機関においては、歯科医師会主催によるデンタルフェアの実施（市民への普及啓発）や、各歯科医院での健診紹介状発行者への対応、歯科かかりつけ医、親子健康手帳の活用促進などの取り組みがあげられる。しかし、3 歳児う歯有病率は全国平均と比較すると 29.0%と依然高く、歯科のかかりつけ医を推奨するためにも継続した歯科保健の取り組み強化が求められる。参考指標として「歯科かかりつけ医」「仕上げみがき」の実施率などと併せた評価が必要である。また、沖縄県の市町村乳幼児健康診査縦断データ分析（小児保健協会）によると、むし歯のり患率と「毎日仕上げみがきをする」「性別」「出生順位」「おやつの時間の規則性」などが関連することがわかってきており、それらの要因に的を絞った取り組みの展開が必要である。
- ・乳幼児の食に関しては、朝食の摂取や食事摂取の規則性について、8、9 割の保護者が行動できており、各種健診や保健事業での知識の普及啓発、さらには各保育施設や子育て支援センター等で行われている講話や研修会の取り組みが大きく影響したといえる。また、指標にはあがっていないが、

乳児の貧血が増加している傾向にあるため、今後も知識の普及啓発の取り組みの更なる充実が求められる。

- ・生活習慣（睡眠）については「3歳児健診で21時台までに寝る子の割合」は、計画策定時30%以下だった数値が、現在は58.1%となり改善がみられているが、依然として3歳児の就寝時間22時以降の割合が約4割となっており、首都圏における同指標の割合28.7%と比較すると那覇市は約1.5倍の高さである。また、外食産業（居酒屋や24時間ファーストフード等）が多い沖縄県は、夜遅くまで飲食店等で親子づれ等の姿も見られる等の夜型社会であるため、保護者の意識改革、改善が必要である。正しい生活習慣の知識、それらが発育・発達に及ぼす影響等について保護者へ情報発信の強化が求められる。
- ・保護者の喫煙については、母親、父親ともに経年で減少している。これは、H15年のタバコ増税やH20年たスポカードの導入といった社会環境の変化の影響も大きいと示唆される。しかし、受動喫煙によるタバコの害は、SIDS、低出生体重児、呼吸器疾患、中耳炎、むし歯等が示唆されており、分煙を行ってもその後の呼気中や髪、衣服などに有害物質が付着しているという報告もあることから、完全な禁煙を勧めていく必要がある。

2) 残された課題

- ・健診受診率の向上に向けた取り組み、及び未受診者の実態把握が必要である。
- ・歯科保健の充実、健診会場での情報発信（むし歯り患と関係する生活習慣、要因等）が求められる。
- ・正しい生活習慣（食生活・栄養・生活リズム）についての知識の普及啓発が必要である。
- ・タバコの害・受動喫煙について保護者への普及啓発が必要である。

基本方針6：親子がともに楽しく遊び心豊かに育つ

1) 総合評価

- ・関係機関、各課において取り組みの評価は「十分できた」「ほぼできた」となり、総合的に各目的は達成できたと考える。
- ・子育て支援センターやつどいの広場で育児サークル支援、交流保育、子育て相談などを実施し、親子で遊べる場の提供や子育て中の親子が気軽に集い交流できる場が提供されている。
- ・また前期乳児健診で実施しているブックスタート事業は、99.7%の方が「ブックスタートを受けて良かった」と回答し、絵本の読み聞かせのきっかけとなり、親子の触れ合いや関わりに繋がっている。
- ・地域保健課に置いては健診会場、各種相談、ケース支援など、各保健師が個別対応時に発達過程に応じた遊びの大切さを啓発しているが、まだ発育発達カレンダーの活用の見直しは必要である。

2) 残された課題

- ・ブックスタート事業を受けた方が、日常的に絵本の読み聞かせを行っているか把握することも、評価に繋がると考えるが、現時点では実態を把握する機会はなく、評価にいたっていない。
- ・乳児健診会場に来られない未熟児、障がいのある児など、ブックスタート事業を受けられなかった未受診者への対応も必要である。
- ・子育て支援センターの立地には地域に偏りがあるため、主幹課の動向を確認しながら、保健分野から支援センターの紹介や繋ぎをどのように行うか検討する必要がある。
- ・近年、子どもとの触れあい方、あやし方がわからない、子どもとの関係が希薄な保護者もみられ、そのような保護者に対し、親子の触れ合いの大切さや遊び方などの情報提供が必要である。

基本方針 7：思春期の子ども達が自分の体を大事にすることができる

(1) 総合評価

- ・現在、学校現場で、小中高校生の保健体育や特別活動の授業等において、タバコの害や受動喫煙の害について、薬物乱用防止教育を行っている（中学校においては県警の協力あり）。関係課においても小中学生や専門学校生に対して行う、タバコ講演会や思春期教室の開催回数が、年々増加傾向にあり、子どもたちがタバコやアルコール、薬物に関する学習をする機会は増えている。
 - ・喫煙に関しては、H20 年からは、タバコの自動販売機に IC カード方式成人識別装置（タスポ）が導入されたことで規制が強化され、店舗販売でも対面による販売が徹底されてきており、未成年者が容易に購入できないよう環境が整備された。また保護者、地域、行政等で夜間パトロール等を定期的実施するなど、未成年者の深夜徘徊や非行予防対策を強化した成果から、中高生の喫煙経験率・飲酒経験率が策定当初より減少がみられていることが示唆される。今後も関係機関の連携のもと、パトロールの実施や声かけを行うなど、子どもたちへ対する地域の見守り体制が必要である。
 - ・性に関する授業も、各分野で多く実施されており、子どもたちが性に関することを学ぶ機会は増え、学校現場での性に関する授業の需要も高まっている。しかし、性に関する情報が氾らんする中、アンケート結果からは、避妊方法を知っている中高生の割合が 46.6%→60.5%→56%と中間評価時からは減少している。沖縄県における 10 代人工妊娠中絶実施率は、H23 年以降全国値を上回り、10 代の出産割合をみても全国より高い数値が続いており、沖縄県は 10 代の妊娠が多いことがわかる。
 - ・性感染症について学習したことがあると答えた中高生の割合は 59.5%→70.0%→84.8%と増加しているが、10 代の妊娠が多い現状をみると性感染症のり患の可能性も高く、性感染症の正しい知識を知っているとは評価し難い。
- 各課や各関係機関において、性に関する授業が増えており、子どもたちに情報発信する機会が増えているにも関わらず、避妊方法を知っている中高生の割合が低下していることや 10 代の人工妊娠

中絶実施率や出産割合に減少がみられないのは、性に関する情報が子どもたちの理解度と直接結びついていないことが示唆され、関係課や関係機関と連携し性教育の体系や取り組みの検討、相談体制の充実を図る必要がある。

(2) 残された課題

- 喫煙経験率や飲酒経験率、避妊方法・性感染症の知識の有無に関しては、小中高生が対象のため、今後も現状把握には関係課や関係機関、地域と連携し、取り組みを検討する必要がある。
- 地域の見守りの強化のためにも、地域の教育力向上を狙い、また継続して活動を実施できるよう育成者及び指導者の確保と養成が課題となっている。
- 喫煙・飲酒は、非行の始まりとも捉えられる。非行の進行が10代の望まない妊娠に繋がる可能性も考え、非行予防の一連の対策が必要。非行の裏に隠れる心の問題にも焦点をあて、対応策を考えなければならない。(健康なは21と協議予定)
- 10代の人工妊娠中絶実施率や出産割合をみたとき、沖縄県全体の数値のため、那覇市だけの現状がみえづらい。(H25年度から中核市となり那覇市保健所になったため、H25年度からは那覇市だけの数値を出すことができることから、検証を行う必要がある。H25年度的那覇市10代出産件数86件、10代人工妊娠中絶率は9.8)
- 妊娠・中絶に関する相談内容やその対応について、相談先等を体制化する必要がある。
- 望まない妊娠への対策について、産婦人科や関係機関との連携が必要である。中絶手術実施機関や緊急ピル処方機関等の情報公開についても情報を整理する必要がある。

3. 策定作業部会からの現状と課題

母子保健に関わる活動からの意見や課題、提案を求めるために作業部会（3 部会）を設置し、現状や課題について出していただいた意見は以下のようになっています。

（１）周産期部会より

①妊娠期の健康管理が必要

- ・ 有所見のある妊婦への指導・支援体制（妊娠中の高血糖や高血圧、貧血等）
- ・ 母親となる 1 人 1 人の健康管理への意識の向上が必要

②低出生体重児が多くみられる

- ・ 妊婦、その夫の喫煙がみられる
- ・ 切迫早産の予防が求められる

③情報提供や支援の不足

- ・ 妊娠に気づかずそのまま出産にいたってしまう人がいる
- ・ 身近に相談できる人がいない方や初産の方への支援などが必要

④メンタル面のサポート

- ・ メンタル面で健康管理が必要な妊産婦への精神科、産婦人科との連携について（訪問看護を入れるなどの工夫ができないか）
- ・ 産後うつへの対応が必要（精神科と産婦人科との連携について）

⑤望まない妊娠への対応

- ・ 望まない妊娠、産むか迷った方への対応が不十分
- ・ 相談窓口が誰にでもわかるように明らかにする必要がある。
- ・ （一人で悩んで週数を重ねて出産をむかえれば様々なリスクがおこりえると考えられる）

⑥虐待防止

- ・ 妊婦健診や乳幼児健診の未受診者への対策
- ・ 育てにくいと感じているお子さんなどへの支援
- ・ 保護者が発達過程が分からず対応している

（２）乳幼児期部会より

①子育てや健康に関する（正しい）情報の提供が必要（情報も氾濫しすぎている）

- ・ 情報化社会でいろいろな情報にふりまわされている
- ・ こどもの年齢に応じた成長や発達過程を理解していない保護者がみられる
- ・ 市などからのチラシ（情報）が何種類もあり、活用できていない
- ・ 読み手が何を見ればよいのか分かりづらい

②子育ての不安解消、親への子育て支援

- ・ 初めての子育てで、対応がわからない親への、子育てスキルを伝えるプログラム等が必要である
- ・ 夫（お父さん）の子育てや家事などへの積極的な協力が求められる

③交流の場の周知や機会の充実

- ・ 親同士が集うだけでなく、安心して話し合ったり交流する場が少ない⇒つなぐ人が必要

- ・親子教室の充実（身近で気軽に使える場が必要）
 - ・発達障がい児がいると周りには言いづらいのが親の心境である。他人と関わりにくい状況がある
 - ・多世代交流も必要
- ④発達障がいや障がいの早期発見と、市民、社会全体の発達障がいに対する正しい知識や理解が必要
- ・自閉症スペクトラム障がい、ADHD など、それぞれによって対応がかわってくるため、発達障がいへの理解が求められる
 - ・発達障がいということに気づいていないため、虐待につながることもある
 - ・クラスに数%いるといわれる気になる子について、保育や教育に携わる先生などの研修も増えてきていると思うが、実際に担任となった場合、適切な対応をとることができるような研修の充実が必要である。
- ⑤関係機関などの子育てのネットワークづくり
- ・子育てのネットワークが出来ておらず、どこに聞いてよいかわからない
 - ・関係機関同士の繋ぎや連携の強化が必要
- ⑥乳幼児健診の受診率向上
- ・受診の大切さを伝える必要がある
 - ・乳幼児健診の「場」の工夫が求められる（受診率UPにつながる）。呼び出す人数を少なくし、待ち時間も少なく、パーツに分けてゆったりと相談できる等などの工夫が必要である
 - ・発達障がいがあると、健診会場に連れて行きにくい。個別での健診の実施など検討が必要である
- ⑦未受診の親子に寄り添う支援
- ・未受診の親子は何らかの問題を抱えていて、孤立している可能性が高いことから、そのような親子に寄りそう支援の充実、未受診者対策の充実が求められる
- ⑨予防接種に関する情報発信
- ・予防接種の大切さ、情報を伝える必要がある
- ⑩事故予防
- ・乳幼児期の事故防止のために、親への教育・勉強会の機会の充実が必要である（乳幼児突然死症候群（SIDS）など危険予防）

（３）学童期・思春期部会より

- ①子どもの生活習慣の改善
- ・朝は朝練（部活）、夜は塾通いで、子どもたちはなかなか心身共に休めていない。そのような現状のまま「早寝・早起き・朝ごはん」をすすめることは厳しい
 - ・夜型社会でテレビを見たり、スマートフォン、携帯電話を使う等、夜遅くまで起きている
 - ・低学年では遅刻したり、朝食の欠食、高学年は非行問題につながる可能性もある
 - ・地域や学校、保護者、警察などによる夜間パトロールは行っている（しかしそのパトロールが終わった後に徘徊をしている子どももいる）
- ②子どもの肥満・痩せの予防、子どもの栄養・食生活
- ・肥満傾向児はまだ多いが、痩身傾向のこどももみられるようになっている
 - ・経済的な面から食事が十分にとれないこどもがいる（子どもの健康格差の広がり）

- ・朝食の摂取率は上がっているが、クッキー1枚、菓子パンだけ、スープだけでもこどもは朝食を食べたと答える。食事内容（メニュー・質）は評価されていない
- ・発信したい相手に情報を届けることができない（食育イベント、授業参観日の展示、親子料理教室、講演会）

③子どものむし歯対策（歯肉炎になっている子どももみられる）

- ・口腔環境や生活習慣（歯みがきをしない、歯みがきの仕方が悪い等）が悪いと治療してもむし歯になる。
- ・フッ素塗布だけでなく、歯肉炎等もあるので、定期的に歯科医に見てもらうことが必要
- ・何回も呼びかけをする必要がある
- ・那覇市では乳幼児のフッ素塗布や歯みがき等に取り組んでいる

④子どもを取り巻く SNS 関連の課題

- ・SNS や LINE 等による子どもたち間のトラブル、仲間外れやいじめをはじめ、携帯電話を使用することで睡眠不足になったり、夜更かしのための遅刻、欠席、学校に行かない等の問題がある
- ・携帯電話依存やスマートフォン依存、ネット依存の相談が増えてきている印象がある
- ・SNS 等を使用している子どもの親がその現状を知らない

⑤未成年の喫煙、飲酒予防の取り組みの強化

- ・身近な大人の副流煙が子どもの間接喫煙となる
- ・こどもにはタバコの害の周知はしているが、親や大人への啓発は弱い（タスポを譲る大人もいる）
- ・タバコをやめたいのにやめられない子がいる。また、禁煙外来へいくにもお金がかかる。パッチを買えない状況もある
- ・高校卒業後新しい環境で喫煙をスタートしている子どももみられる。（断ることが重要）
- ・こどもの喫煙、飲酒で以前は男子が多かったが、最近は女子の増加も問題となっている。

⑥性に関すること

- ・10代の妊娠が多い。相談先として地域の保健所の役割は大きい。（子どもたちの身近な相談ができる場所として）
- ・子ども達の間で間違った避妊方法がたくさん出回っている
- ・性感染症の正確な発生件数は把握できない
- ・性非行の低年齢化が進んでいる

⑧精神保健に関する相談を受ける中で、これまでの経過や生活歴などを確認すると、思春期時代の生活に問題があることが多い

⑨成長を見守り育む地域づくり、学校・PTAと関係機関との連携

- ・地域の組織、自治会、青年会、子ども会などの組織の減少
- ・特定健診を受ける年齢になって健診を受けた場合、有所見率は8割で、若い世代からの取り組みが必要である



4. 課題の集約

(1) 安心、安全な妊娠・出産のための支援充実

- 健やかな妊娠出産期を迎えるために、正しい知識のもと妊娠前から健康管理に取り組むことができるよう、相談や学ぶ場の充実が求められます。
- 飲酒や喫煙が妊婦や胎児に与える影響を理解するため、女性だけでなく、家族などの周囲の市民に対しても正しい知識を普及する必要があります。
- 妊婦期の健康管理のサポートの充実や、妊娠に伴う疾病を早期発見し治療へつなげるため、親子健康手帳の活用促進や健診の受診勧奨を行うとともに、産婦人科等との連携を強化する必要があります。
- 妊婦健診有所見者への支援体制の充実を図る必要があります。
- 産後の健康管理や精神面のケアの充実については関係機関との連携が求められます。
- 不妊に関する相談支援の充実が求められます。

(2) 乳幼児の健やかな発育と子育て中の親に寄り添う支援の充実

- こどもの健やかな発育や、疾病や障がい等の早期発見ができるよう、乳幼児健診の受診勧奨を行う必要があります。
- 規則正しい生活習慣を身につけ、将来にわたり健康づくり活動が行えるよう、親子が健康について学ぶ機会の充実が必要です。
- 安心して子育てが行えるよう、相談窓口の充実や適切な情報提供が求められます。発育や発達等こどもの成長過程を学ぶことのできる場の充実が必要です。
- こどもの感染症や事故を未然に防ぐため、医療機関との連携強化や予防接種の周知を図る必要があります。
- 育てにくさを感じる親に寄り添う支援が求められます。
- 疾病や障がいがあっても健やかに発育ができるよう、関係機関との連携の強化が必要です。
- 乳幼児期からのむし歯予防のため、保護者への予防の方法等についての情報提供やかかりつけ歯科医を持つことの働きかけが必要です。
- 受動喫煙防止のため、受動喫煙が健康へ与える影響など、保護者をはじめ市民へ広く周知する必要があります。

(3) 思春期のこころとからだの健康づくり

- 自ら健康管理ができるよう、こころとからだの健康について正しく学ぶ場の充実が求められます。
- いのちの大切さを知り、自分や他者を大切にする意識の醸成が求められます。
- 規則正しい生活習慣を身につけるための、取り組みの充実が必要であり、こどもだけでなく、保護者の意識づくりも必要です。
(栄養、食生活で朝食をしっかり食べる。口腔ケアなど)
- 飲酒や喫煙の未然防止や禁煙への相談支援の充実が求められます。

(4) 妊娠期からの虐待防止

- 望まない妊娠への相談支援や育児不安の軽減など、妊娠期からの虐待防止に取り組む必要があります。
- 虐待しているのではないかと思う親への支援が必要です。

5. 乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査結果

（1）調査の目的

「健やか親子なは（那覇市母子保健計画）」は、親と子が地域の中でいきいきと健やかな生活ができることを基本理念として、親子の健康と子育てしやすい環境づくりを進めるものです。そのため、H27 年度から、新たに始まる 10 年計画の策定にあたり、親子の健康等に関する現状を把握し、今後の最適な母子保健サービスを検討する基礎資料として、アンケート調査を実施しました。

（2）調査の実施概要

1）調査対象者

- ・乳幼児健診を受けている 0 歳、1 歳 6 か月児、3 歳児の保護者（父母）

2）調査の実施方法

- ・乳幼児健診会場で調査員による直接配布・回収（回収：直接回収以外に会場内に設置した回収箱への投函、返信用封筒による回収）

3）調査期間

H26 年 9 月 9 日～11 月 11 日

4）調査票の配布・回収数など

		配布数	有効回収数 (件)	無効件数 (件)	有効回収率 (%)
全体		1,049	1,031	0	98.3%
年 齢	乳児	347	344	0	99.1%
	1 歳 6 か月児	323	316	0	97.8%
	3 歳児	379	371	0	97.9%

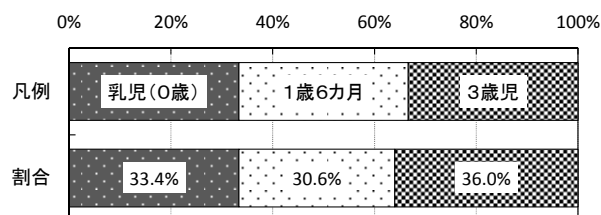
（3）集計にあたって

- ・回答結果の割合について、回答率は小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、単数回答であっても、合計値が 100%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、割合を出しています。そのため、比率を合計すると 100%を超える場合があります。
- ・表や図中で、選択肢の文章が長いものは省略して載せている場合があります。また、「N」は集計の対象者数（設問の限定条件に該当する人の数）を表しています。

(4) アンケート結果

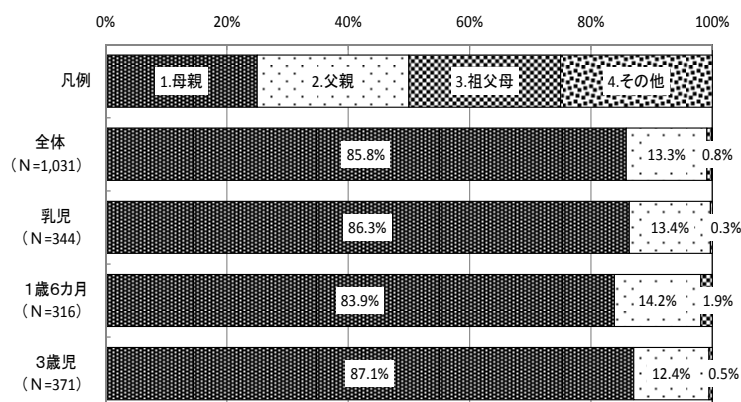
■年齢

- 調査票の回収数は 1,031 人で、年齢別内訳をみると、乳児が 344 人 (33.4%)、1 歳 6 か月が 316 人 (30.6%)、3 歳が 371 人 (36.0%)。



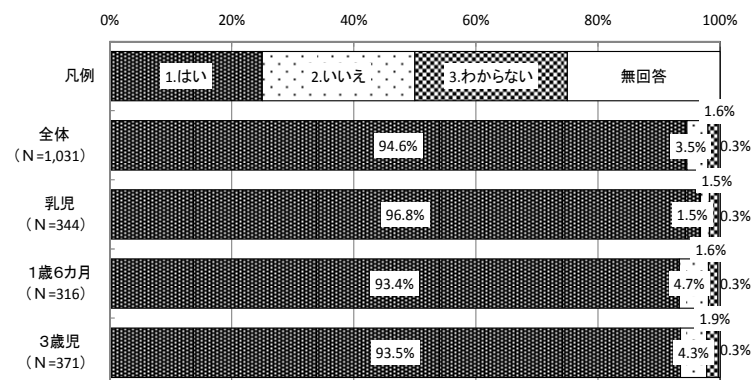
■問 1. このアンケート票へ記入される方はどなたですか。

- 調査票への記入は、「母親」が 9 割弱 (85.8%) と最も高く、どの年齢においても 80% 台を占めており、父親は 1 割程度。



■問 2. 本日健診のお子さんを妊娠中、定期的に妊婦健診を受けていましたか。(○は 1 つ)

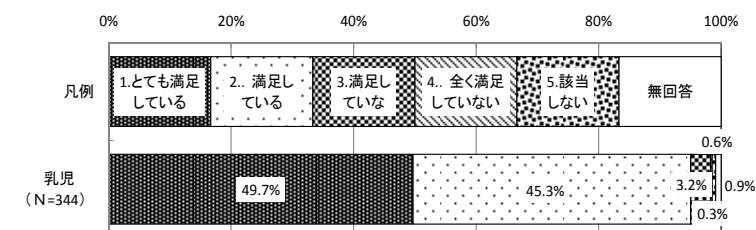
- 妊婦健診を定期的に受けていたとする回答が全体で 94.6%、一方、「いいえ」が 3.5% (36 人)。



■【乳児 (0 歳児) のみの質問 (N=344)】

問 3. 健診を受けられているお子さんの妊娠時期、出産を振り返られていかがでしたか。

- 95.1% が『満足』であったと感じている。一方、「3. 満足していない」は 3.2% (11 人)、「4. 全く満足していない」が 0.3% (1 人) とわずかに『満足していない』回答がみられました。

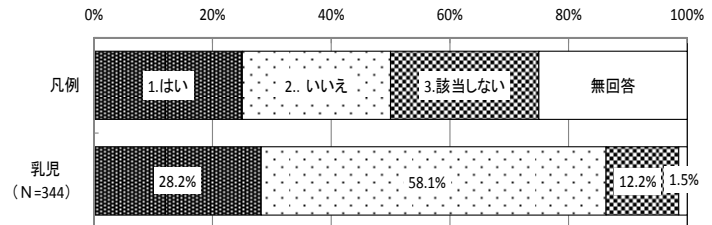


■【乳児（0歳児）のみの質問（N=344）】

問4. お母さんは今までに産後2週間以上にわたり下記のような思いをしたことがありますか。（○は1つ）（何もやる気がしない・気分が落ち込む・食欲がない・頭痛・眠れない・だめな親だと思うなど）

・「2. いいえ」と回答している割合は6割弱（58.1%）。

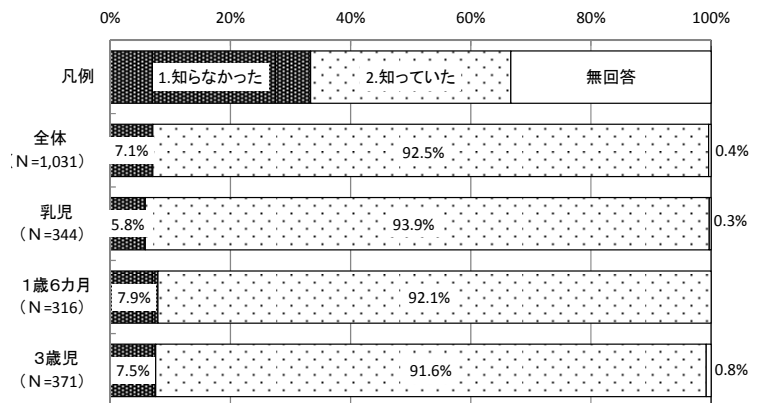
・一方で、「1. はい」が3割弱（28.2%）を占め、そのような思いをしたことがある保護者は少なくないことがうかがえます。



■問5. マタニティマークを知っていますか。（○は1つ）

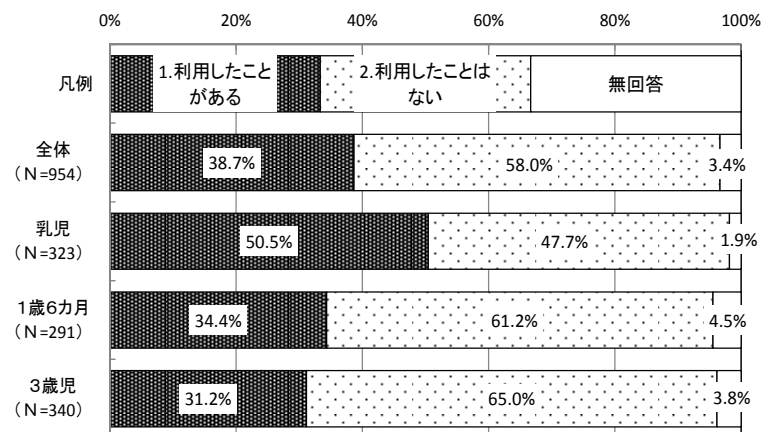
・全体の92.5%が「2. 知っていた」と回答。

・一方で、「知らなかった」とする保護者も1割弱（7.1%）となっており、周知が求められます。



◇5-1 「2. 知っていた」と答えた方で、妊娠中、マタニティマークを身につけるなどして利用したことがありますか。（○は1つ）

・「2. 利用したことはない」が6割弱（58.0%）。「1. 利用したことがある」は4割弱（38.7%）。

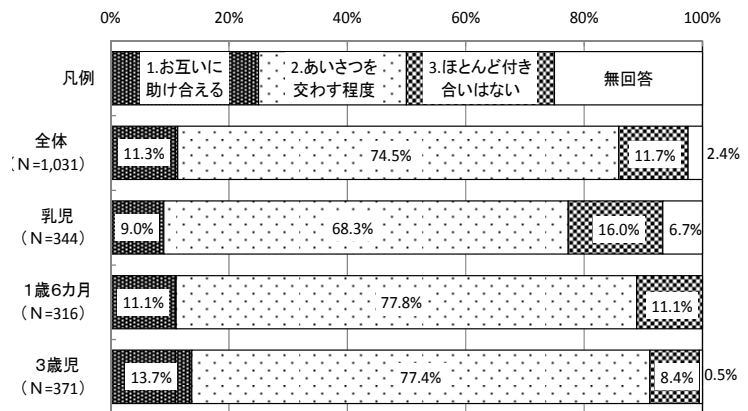


■問6. 近所の人とどの程度の交流がありますか。(○は1つ)

1. お互いに助け合える関係 2. 近所の人とあいさつを交わす程度 3. ほとんど付き合いはない

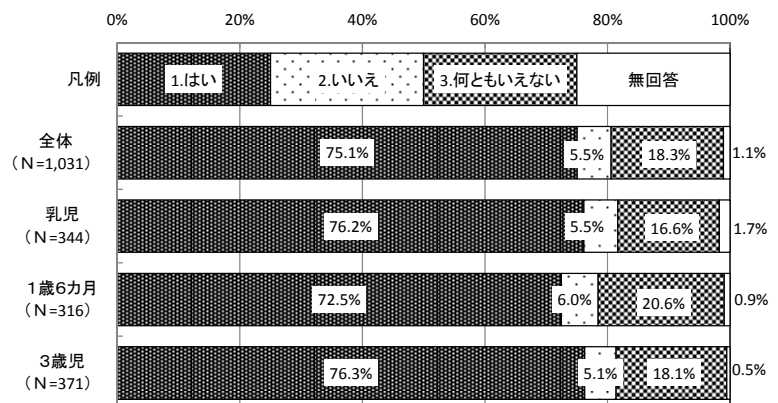
- 「2. 近所の人とあいさつを交わす程度」が7割強(74.5%)と多く、「3. ほとんど付き合いはない」(11.7%)と、「1. お互いに助け合える関係」(11.3%)がそれぞれ1割程度。

- 子どもが大きくなるにつれ、「3. ほとんど付き合いはない」とする割合が少なくなっており、何らかの交流が出てきている様子が見えます。



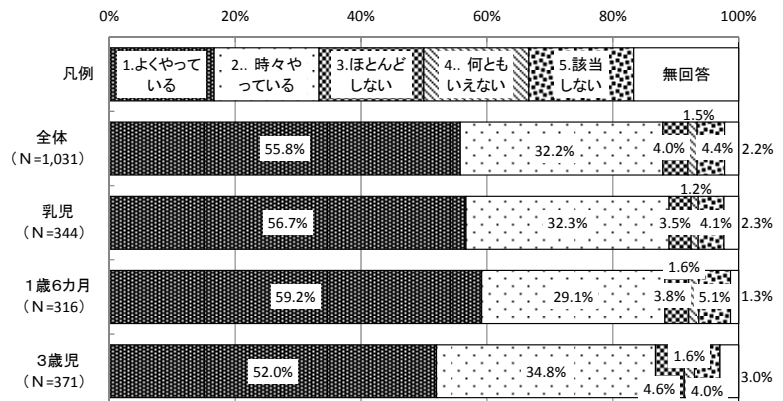
■問7. 今後もお住まいの地域で子育てをしたいとお考えですか。(○は1つ)

- 全体の8割弱(75.1%)が「1. はい」と回答。次いで「3. 何ともいえない」が2割弱(18.3%)、「2. いいえ」が5.5%。



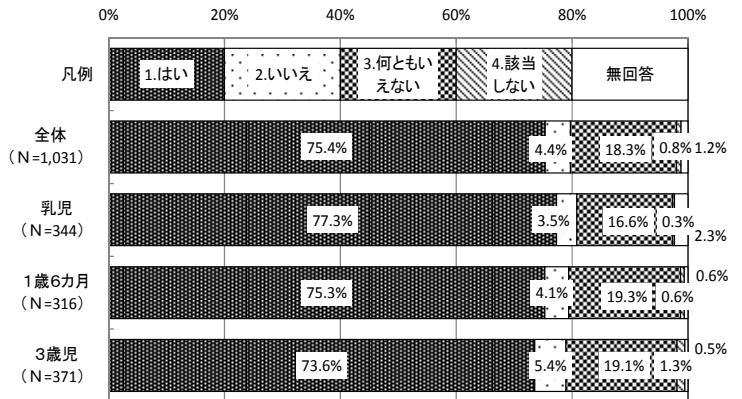
■問8. お父さんは積極的に育児をしていますか。(○は1つ)

- 全体の6割弱(55.8%)が「1. よくやっている」と回答。次いで「2. 時々やっている」(32.2%)、「3. ほとんどしない」(4.0%)、「4. 何ともいえない」(1.5%)となっています。



■問9. お母さんはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか。 (○は1つ)

- 全体の8割弱 (75.4%) が「1. はい」と回答。一方、「2. いいえ」が4.4%。
- 「3. 何ともいえない」が2割弱(18.3%)を占めており、『ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある』と感じていない(「いいえ」4.4%)、もしくは何ともいえない母親(「何ともいえない」18.3%)が、2割強(22.7%)。年齢に関わらず、このような傾向がみられます。



(参考)

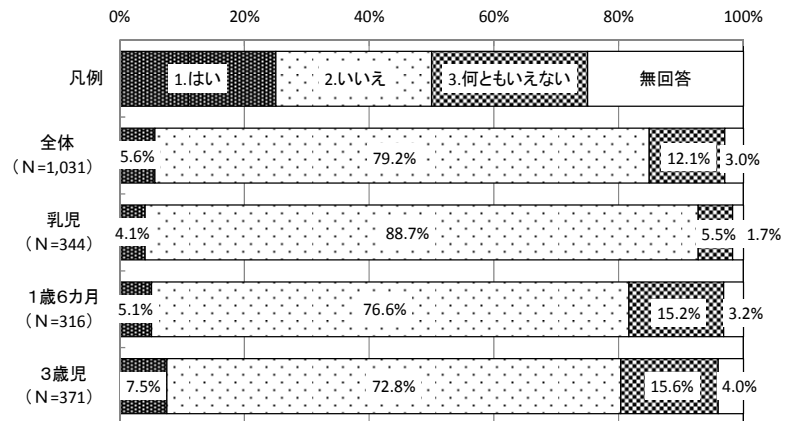
- 母親がゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間の有無と、父親の育児参加状況をみると、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる「はい」と回答した、父親の育児は「①よくやっている」が60.5%と高い割合を示しています。

問8 お父さんの積極的育児参加×問9 お母さんがゆったりと過ごせる時間 (単数回答)

		合計	問8 お父さんの積極的育児参加					
			① よく やって いる	② 時々 やって いる	③ ほと んど しな い	④ 何と もい えな い	⑤ 該 当し ない	無 回 答
の分 有で 母お 無さ 子 が ん が ゆ と つ 過 た り と し た 時 間 気	全体	1,031 100.0%	575 55.8%	332 32.2%	41 4.0%	15 1.5%	45 4.4%	23 2.2%
	1. はい	777 100.0%	470 60.5%	228 29.3%	25 3.2%	9 1.2%	31 4.0%	14 1.8%
	2. いいえ	45 100.0%	13 28.9%	20 44.4%	8 17.8%	1 2.2%	3 6.7%	0 0.0%
	3. 何ともいえない	189 100.0%	83 43.9%	79 41.8%	8 4.2%	5 2.6%	11 5.8%	3 1.6%
	4. 該当しない	8 100.0%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	12 100.0%	3 25.0%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 50.0%

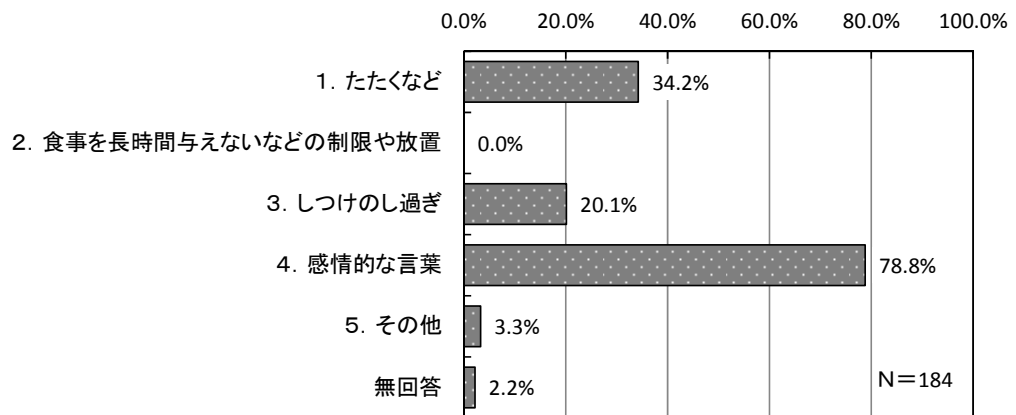
■問 10. あなたは、子どもを虐待しているのではないかとありますか。

- 子どもを虐待しているのではと思う
「1. はい」と回答した保護者は、
全体で 5.6%。一方、「2. いいえ」
が約8割(79.2%)であった。また、
虐待について明確に回答できない、
「3. 何ともいえない」が1割強
(12.1%)。



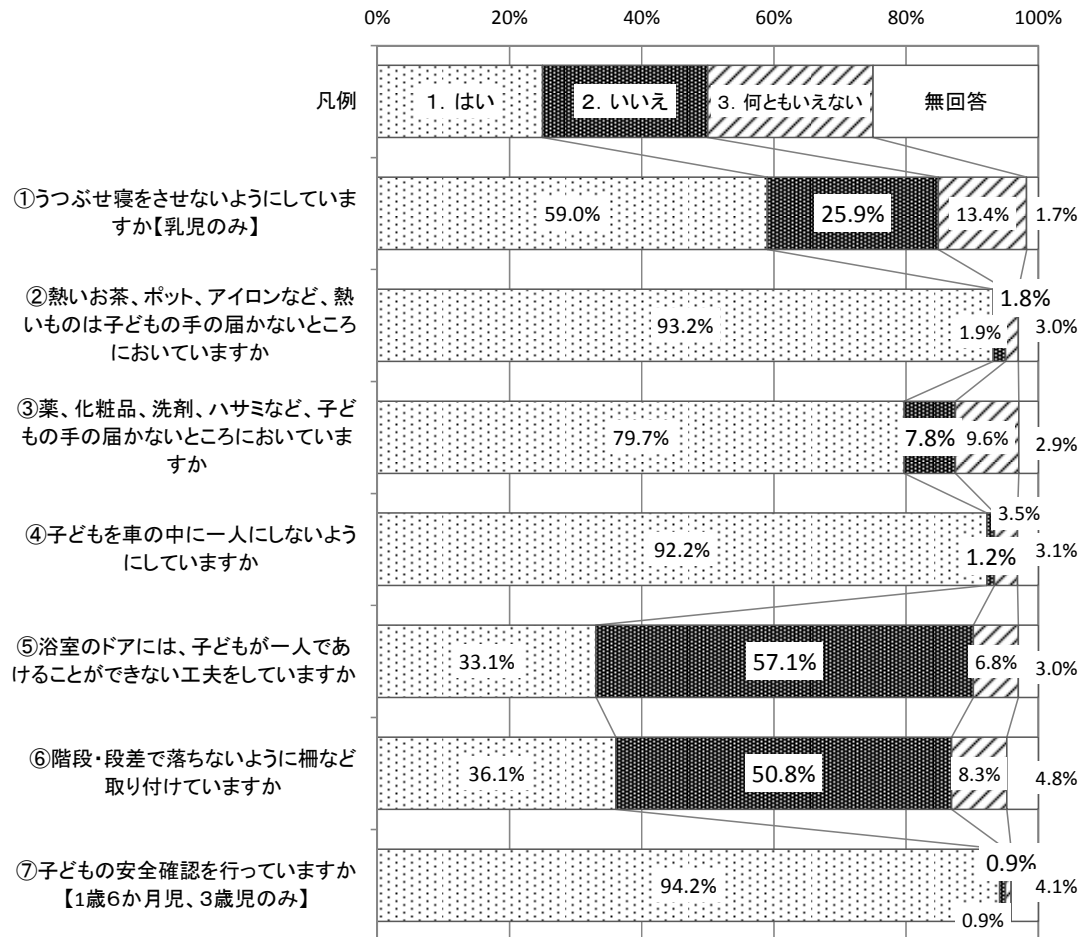
◇10-1 「1. はい」あるいは「3. 何ともいえない」と答えられた方へ それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 虐待をしていると思われる、また何ともいえないと回答した保護者へその内容をたずねると、「4. 感情的な言葉」が8割弱(78.8%)と最も多く、次いで「1. たたくなど」が3割強(34.2%)、「3. しつけのし過ぎ」が約2割(20.1%)となっています。



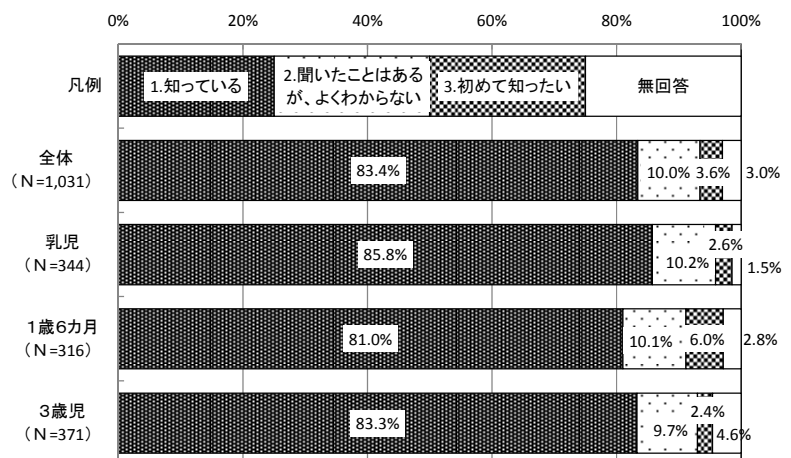
■問 11. 子どもの事故防止についておたずねします。（それぞれあてはまるもの１つに○）

- ・うつぶせ寝にさせない、浴室ドアの開閉の工夫、階段や段差への柵などの設置については対策をしていないとする「いいえ」の割合が高くなっています。



■問 12. 乳幼児揺さぶられ症候群を知っていますか。（下の説明文を読んでお答えください）

- ・「1. 知っている」が8割強（83.4%）、「2. 聞いたことはあるが、よくわからない」とする割合が1割（10.0%）と少ないものの「3. 初めて知った」とする回答も3.6%（37人）みられました。

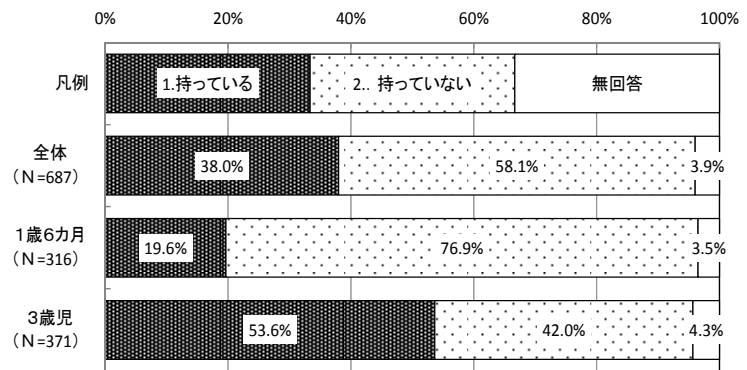


■【1歳6カ月児（N=316）と3歳児（N=371）のみ】

問 13. お子さんの**歯科**のかかりつけ医を持っていますか。（〇は1つ）

・かかりつけの歯科医については、「1. 持っている」が4割弱（38.0%）、「2. 持っていない」が6割弱（58.1%）。

・年齢別についてみると、『1歳6か月』で約2割（19.6%）。『3歳児』は5割強（53.6%）にとどまっており、この年齢は『3歳児』は乳歯が生えそろう時期でもあるため、むし歯予防のためにもかかりつけ歯科医の大切さなど、さらなる周知が求められます。



6. 「健康なは 21」に関するアンケート調査結果

1 調査の目的と実施概要

(1) 調査の目的

「健康なは 21（第2次）」計画策定にあたり、「健康なは 21」計画（H17 年度～H26 年度）、（以下、第 1 次計画という。）の目標指標の達成状況評価・分析のため、既存データのない指標についての実態調査を行い、第 1 次計画との比較評価を行う。また、第 2 次計画策定のため、既存資料のない分野についての実態調査も併せて行い、第 2 次計画の基礎資料とする。また、性に関する調査項目については、「健やか親子なは（第2次）」が同時期に策定（那覇市地域保健課）予定となっており、効率的に実施するため、本調査と合わせて調査し、基礎資料とする。

1) 調査対象者

- ①那覇市内の中学校（市内 18 校）の各学年から 1 クラス
- ②那覇市内の高等学校（県立 9 校）の各学年から 1 クラス

2) 調査の実施方法

市内中学校、高等学校の各学年から 1 クラスの生徒にアンケート調査票と回収封筒を配付した。記入した調査票は回収封筒に入れ封をしてもらい、学校側で生徒から回収を行った。

3) 調査期間：H26 年 8 月 25 日～9 月 25 日

4) 調査票の配布・回収数など

	配布数	回収件数 (件)	無効件数 (件)	有効回収件 数 (件)	有効回収率 (%)
全体	2,703	2,701	10	2,691	99.6%
中学校	1,684	1,683	9	1,674	99.5%
高校	1,019	1,018	1	1,017	99.9%

(2) 調査項目

分野	調査項目（第 1 次計画の指標及び実態把握のための項目）	基礎資料として参考にする計画
タバコ	①タバコを吸った経験（喫煙経験）及びきっかけ ②現在の喫煙状況 ③禁煙の意思 ④家族にタバコを吸う人はいるか	「健康なは 21」（第 2 次）
アルコール	①お酒を飲んだ経験（飲酒経験）及びきっかけ ②現在の飲酒状況	
性の知識	①避妊方法を知っていますか ②性感染症について学んだことがあるか	「健やか親子なは 2015」

2 調査の結果

(1) 回答者の属性

	件数	(全体)
総数	2,691	100.0%
1. 中学生	1,674	62.2%
2. 高校生	1,017	37.8%

	合計	1年生	2年生	3年生
全体	2,691 100.0%	853 31.7%	925 34.4%	913 33.9%
中学生	1,674 100.0%	515 30.8%	583 34.8%	576 34.4%
高校生	1,017 100.0%	338 33.2%	342 33.6%	337 33.1%

上段:実数 下段: %		合計	男子	女子	無回答
全体		2,691 100.0	1,371 50.9	1,319 49.0	1 0.0
中 学 生	合計	1,674	845	828	1
		100.0	50.5	49.5	0.1
	1年生	515	256	259	0
		100.0	49.7	50.3	0.0
	2年生	583	292	291	0
		100.0	50.1	49.9	0.0
	3年生	576	297	278	1
		100.0	51.6	48.3	0.2
高 校 生	合計	1,017	526	491	0
		100.0	51.7	48.3	0.0
	1年生	338	168	170	0
		100.0	49.7	50.3	0.0
	2年生	342	179	163	0
		100.0	52.3	47.7	0.0
	3年生	337	179	158	0
		100.0	53.1	46.9	0.0

(2) タバコについて

問2 あなたは今までに1回でも「タバコ」を吸った経験がありますか。(○は1つ)

1 ある	2 ない
------	------

- ・今までに1回でも「タバコ」を吸ったことがある生徒の割合は、6.4%（172人）で、中学生5.0%（84人）、高校生8.7%（88人）。
- ・性別にみると、中学生では男子が6.2%（52人）、女子が3.9%（32人）、高校生では男子が12.9%（68人）、女子4.1%（20人）であり、男子の割合が高い。
- ・学年があがるにつれ、喫煙経験の割合も増加。

上段：実数 下段：%		合計	ある	ない	無回答
全体		2,691	172	2,517	2
		100.0	6.4	93.5	0.1
性別	中学生	1,674	84	1,589	1
		100.0	5.0	94.9	0.1
	男子	845	52	793	0
		100.0	6.2	93.8	0.0
	女子	828	32	795	1
		100.0	3.9	96.0	0.1
	無回答	1	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
	高校生	1,017	88	928	1
		100.0	8.7	91.2	0.1
	男子	526	68	458	0
		100.0	12.9	87.1	0.0
	女子	491	20	470	1
		100.0	4.1	95.7	0.2
学年	中学生	1,674	84	1,589	1
		100.0	5.0	94.9	0.1
	1年生	515	12	502	1
		100.0	2.3	97.5	0.2
	2年生	583	36	547	0
		100.0	6.2	93.8	0.0
	3年生	576	36	540	0
		100.0	6.3	93.8	0.0
	高校生	1,017	88	928	1
		100.0	8.7	91.2	0.1
	1年生	338	26	311	1
		100.0	7.7	92.0	0.3
	2年生	342	26	316	0
		100.0	7.6	92.4	0.0
	3年生	337	36	301	0
		100.0	10.7	89.3	0.0

上段：実数 下段：%		男子				女子			
		合計	ある	ない	無回答	合計	1 ある	2 ない	無回答
全体		1,371	120	1,251	0	1,319	52	1,265	2
		100.0	8.8	91.2	0.0	100.0	3.9	95.9	0.2
中学生	合計	845	52	793	0	828	32	795	1
		100.0	6.2	93.8	0.0	100.0	3.9	96.0	0.1
	1年生	256	4	252	0	259	8	250	1
		100.0	1.6	98.4	0.0	100.0	3.1	96.5	0.4
	2年生	292	25	267	0	291	11	280	0
		100.0	8.6	91.4	0.0	100.0	3.8	96.2	0.0
	3年生	297	23	274	0	278	13	265	0
		100.0	7.7	92.3	0.0	100.0	4.7	95.3	0.0
高校生	合計	526	68	458	0	491	20	470	1
		100.0	12.9	87.1	0.0	100.0	4.1	95.7	0.2
	1年生	168	20	148	0	170	6	163	1
		100.0	11.9	88.1	0.0	100.0	3.5	95.9	0.6
	2年生	179	21	158	0	163	5	158	0
		100.0	11.7	88.3	0.0	100.0	3.1	96.9	0.0
	3年生	179	27	152	0	158	9	149	0
		100.0	15.1	84.9	0.0	100.0	5.7	94.3	0.0

問3 「タバコ」を吸ったきっかけはなんですか。(主なものに○)

- 1 友達に勧められて 2 先輩に勧められて 3 興味があった
4 好奇心で 5 なんとなく 6 その他 ()

- ・「タバコ」を吸ったきっかけは、「好奇心で」が28.5% (49人)、次いで「友だちの勧め」が24.4% (42人)、「なんとなく」が21.5% (37人) となっている。
- ・中学生では「好奇心」(26.2%) が最も多く、次いで「なんとなく」(25.0%)、「友だちの勧め」(20.2%) となっている。高校生では「好奇心で」が30.7%と最も多く、次いで「友だちの勧め」、「なんとなく」の順になっている。中高校生ともに男子は「好奇心で」、女子は「なんとなく」が最も多い理由となっている。

上段:実数 下段: %		合計	1 友達に 勧められて	2 先輩に 勧められて	3 興味が あった	4 好奇心 で	5 なんと なく	6 その他	無回答
全体		172	42	11	17	49	37	13	3
		100.0	24.4	6.4	9.9	28.5	21.5	7.6	1.7
性別	中学生	84	17	5	10	22	21	7	2
		100.0	20.2	6.0	11.9	26.2	25.0	8.3	2.4
	男子	52	11	2	7	15	11	6	0
		100.0	21.2	3.8	13.5	28.8	21.2	11.5	0.0
	女子	32	6	3	3	7	10	1	2
		100.0	18.8	9.4	9.4	21.9	31.3	3.1	6.3
	高校生	88	25	6	7	27	16	6	1
		100.0	28.4	6.8	8.0	30.7	18.2	6.8	1.1
	男子	68	21	6	5	23	10	3	0
		100.0	30.9	8.8	7.4	33.8	14.7	4.4	0.0
学年	女子	20	4	0	2	4	6	3	1
		100.0	20.0	0.0	10.0	20.0	30.0	15.0	5.0
	中学生	84	17	5	10	22	21	7	2
		100.0	20.2	6.0	11.9	26.2	25.0	8.3	2.4
	1年生	12	2	2	0	4	3	1	0
		100.0	16.7	16.7	0.0	33.3	25.0	8.3	0.0
	2年生	36	6	1	7	8	8	5	1
		100.0	16.7	2.8	19.4	22.2	22.2	13.9	2.8
	3年生	36	9	2	3	10	10	1	1
		100.0	25.0	5.6	8.3	27.8	27.8	2.8	2.8
	高校生	88	25	6	7	27	16	6	1
		100.0	28.4	6.8	8.0	30.7	18.2	6.8	1.1
	1年生	26	9	0	5	6	4	1	1
		100.0	34.6	0.0	19.2	23.1	15.4	3.8	3.8
	2年生	26	10	2	2	5	5	2	0
		100.0	38.5	7.7	7.7	19.2	19.2	7.7	0.0
	3年生	36	6	4	0	16	7	3	0
		100.0	16.7	11.1	0.0	44.4	19.4	8.3	0.0

上段:実数 下段: %		男 子							
		合計	1 友達に 勧められ て	2 先輩に 勧められ て	3 興味が あった	4 好奇心 で	5 なんと なく	6 その他	無回答
全体		120 100.0	32 26.7	8 6.7	12 10.0	38 31.7	21 17.5	9 7.5	0 0.0
中 学 生	合計	52 100.0	11 21.2	2 3.8	7 13.5	15 28.8	11 21.2	6 11.5	0 0.0
		4 100.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0
	1年生	25 100.0	4 16.0	1 4.0	5 20.0	7 28.0	4 16.0	4 16.0	0 0.0
		23 100.0	6 26.1	1 4.3	2 8.7	7 30.4	6 26.1	1 4.3	0 0.0
	2年生	25 100.0	4 16.0	1 4.0	5 20.0	7 28.0	4 16.0	4 16.0	0 0.0
		23 100.0	6 26.1	1 4.3	2 8.7	7 30.4	6 26.1	1 4.3	0 0.0
高 校 生	合計	68 100.0	21 30.9	6 8.8	5 7.4	23 33.8	10 14.7	3 4.4	0 0.0
		20 100.0	8 40.0	0 0.0	3 15.0	6 30.0	2 10.0	1 5.0	0 0.0
	1年生	21 100.0	8 38.1	2 9.5	2 9.5	5 23.8	3 14.3	1 4.8	0 0.0
		27 100.0	5 18.5	4 14.8	0 0.0	12 44.4	5 18.5	1 3.7	0 0.0
	2年生	21 100.0	8 38.1	2 9.5	2 9.5	5 23.8	3 14.3	1 4.8	0 0.0
		27 100.0	5 18.5	4 14.8	0 0.0	12 44.4	5 18.5	1 3.7	0 0.0
上段:実数 下段: %	女 子								
	合計	1 友達に 勧められ て	2 先輩に 勧められ て	3 興味が あった	4 好奇心 で	5 なんと なく	6 その他	無回答	
全体		52 100.0	10 19.2	3 5.8	5 9.6	11 21.2	16 30.8	4 7.7	3 5.8
中 学 生	合計	32 100.0	6 18.8	3 9.4	3 9.4	7 21.9	10 31.3	1 3.1	2 6.3
		8 100.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	3 37.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0
	1年生	11 100.0	2 18.2	0 0.0	2 18.2	1 9.1	4 36.4	1 9.1	1 9.1
		13 100.0	3 23.1	1 7.7	1 7.7	3 23.1	4 30.8	0 0.0	1 7.7
	2年生	11 100.0	2 18.2	0 0.0	2 18.2	1 9.1	4 36.4	1 9.1	1 9.1
		13 100.0	3 23.1	1 7.7	1 7.7	3 23.1	4 30.8	0 0.0	1 7.7
高 校 生	合計	20 100.0	4 20.0	0 0.0	2 10.0	4 20.0	6 30.0	3 15.0	1 5.0
		6 100.0	1 16.7	0 0.0	2 33.3	0 0.0	2 33.3	0 0.0	1 16.7
	1年生	5 100.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0
		9 100.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	4 44.4	2 22.2	2 22.2	0 0.0
	2年生	5 100.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0
		9 100.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	4 44.4	2 22.2	2 22.2	0 0.0

問4 この1か月にあなたは「タバコ」を吸っていますか？（○は1つ）

1 はい	2 いいえ
------	-------

- この1ヶ月間に喫煙した生徒は、全体の1.6%（43人）となっている。中学生は1.2%（20人）、高校生は2.3%（23人）であり、常習化が懸念される。
- 性別での内訳をみると、中学生では、男子1.1%（9人）、女子1.3%（11人）と女子が男子よりも多くなっている。高校生では、男子3.2%（17人）、女子1.2%（6人）と男子が女子よりも多くなっている。

上段:実数 下段: %		合計	はい	いいえ	無回答	非該当
全体		2,691	43	127	2	2,519
		100.0	1.6	4.7	0.1	93.6
性別	中学生	1,674	20	63	1	1,590
		100.0	1.2	3.8	0.1	95.0
	男子	854	9	42	1	802
		100.0	1.1	4.9	0.1	93.9
	女子	828	11	21	0	796
		100.0	1.3	2.5	0.0	96.1
	高校生	1,017	23	64	1	929
		100.0	2.3	6.3	0.1	91.3
	男子	526	17	51	0	458
		100.0	3.2	9.7	0.0	87.1
	女子	491	6	13	1	471
		100.0	1.2	2.6	0.2	95.9
学年	中学生	1,674	20	63	1	1,590
		100.0	1.2	3.8	0.1	95.0
	1年生	515	1	11	0	503
		100.0	0.2	2.1	0.0	97.7
	2年生	583	9	26	1	547
		100.0	1.5	4.5	0.2	93.8
	3年生	576	10	26	0	540
		100.0	1.7	4.5	0.0	93.8
	高校生	1,017	23	64	1	929
		100.0	2.3	6.3	0.1	91.3
	1年生	338	7	18	1	312
		100.0	2.1	5.3	0.3	92.3
	2年生	342	7	19	0	316
		100.0	2.0	5.6	0.0	92.4
	3年生	337	9	27	0	301
		100.0	2.7	8.0	0.0	89.3

※非該当：喫煙経験のない生徒

上段:実数 下段: %		男 子					女 子				
		合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当
全体		1,371 100.0	26 1.9	93 6.8	1 0.1	1,251 91.2	1,319 100.0	17 1.3	34 2.6	1 0.1	1,267 96.1
中学生	合計	845 100.0	9 1.1	42 5.0	1 0.1	793 93.8	828 100.0	11 1.3	21 2.5	0 0.0	796 96.1
	1年生	156 100.0	0 0.0	4 2.6	0 0.0	152 97.4	259 100.0	1 0.4	7 2.7	0 0.0	251 96.9
	2年生	292 100.0	5 1.7	19 6.5	1 0.3	267 91.4	291 100.0	4 1.4	7 2.4	0 0.0	280 96.2
	3年生	297 100.0	4 1.3	19 6.4	0 0.0	274 92.3	278 100.0	6 2.2	7 2.5	0 0.0	265 95.3
	合計	526 100.0	17 3.2	51 9.7	0 0.0	458 87.1	491 100.0	6 1.2	13 2.6	1 0.2	471 95.9
	1年生	168 100.0	5 3.0	15 8.9	0 0.0	148 88.1	170 100.0	2 1.2	3 1.8	1 0.6	164 96.5
高校生	2年生	179 100.0	7 3.9	14 7.8	0 0.0	158 88.3	163 100.0	0 0.0	5 3.1	0 0.0	158 96.9
	3年生	179 100.0	5 2.8	22 12.3	0 0.0	152 84.9	158 100.0	4 2.5	5 3.2	0 0.0	149 94.3

問5（問4で「はい」と答えた方へ）「タバコ」をやめたいと思いますか？（○は1つ）

- この1か月の間に喫煙をした生徒のうち、76.7%（33人）が「タバコ」をやめたいと回答している。

- 一方、やめないとする回答も20.9%（9人）みられる。

	件数	(全体)
総数	43	100.0%
1 はい	33	76.7%
2 いいえ	9	20.9%
無回答	1	2.3%

問6（問2で「ある」と答えた方へ）家族に「タバコ」を吸う人はいますか？（○は1つ）

- 喫煙経験のある生徒のうち、67.4%（116人）が家族の中に喫煙者がいると回答している。

	件数	(全体)
総数	172	100.0%
1 いる	116	67.4%
2 いない	49	28.5%
無回答	7	4.1%

問7（問6で「いる」と答えた方へ）

家族のなかで「タバコ」を吸っているのは誰ですか？（当てはまる人すべてに○）

- 父親が58.6%（68人）、母親が53.4%（62人）、兄弟姉妹29.3%（34人）の順となっている。

	件数	(全体)
総数	116	100.0%
1 父	68	58.6%
2 母	62	53.4%
3 祖父母	10	8.6%
4 兄弟姉妹	34	29.3%
5 その他	2	1.7%

	合計	1 父	2 母	3 祖父母	4 兄弟姉妹	5 その他
全体	116	68	62	10	34	2
	100.0	58.6	53.4	8.6	29.3	1.7
性別	1 男子	77	49	40	7	18
		100.0	63.6	51.9	9.1	23.4
	2 女子	39	19	22	3	16
		100.0	48.7	56.4	7.7	41.0

(2) 飲酒について

問8 あなたは今までに1回でも「お酒」(ビールや泡盛、ウィスキー等)を飲んだ経験がありますか。(○は1つ)

- 今までに1回でも「お酒」を飲んだことのある生徒の割合は、20.5% (552 人) で、中学生 18.4%、高校生 24.0%であった。
- 中学生では男子が 18.2% (154 人)、女子が 18.6% (154 人) で、男子と女子がほぼ同じ割合となっている。高校生では男子が 28.5% (244 人)、女子 19.1% (94 人) であり、高校生の男子は3割弱が飲酒の経験があるとしている。
- 中学生、高校生ともに、学年があがるにつれ、飲酒経験の割合も高くなっている。

上段:実数 下段: %		合計	ある	ない	無回答
全体		2,691 100.0	552 20.5	2,102 78.1	37 1.4
性別	中学生	1,674 100.0	308 18.4	1,337 79.9	29 1.7
	男子	845 100.0	154 18.2	677 80.1	14 1.7
	女子	828 100.0	154 18.6	659 79.6	15 1.8
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	高校生	1,017 100.0	244 24.0	765 75.2	8 0.8
	男子	526 100.0	150 28.5	372 70.7	4 0.8
	女子	491 100.0	94 19.1	393 80.0	4 0.8
	中学生	1,674 100.0	308 18.4	1,337 79.9	29 1.7
	1年生	515 100.0	87 16.9	414 80.4	14 2.7
	2年生	583 100.0	108 18.5	467 80.1	8 1.4
学年	3年生	576 100.0	113 19.6	456 79.2	7 1.2
	高校生	1,017 100.0	244 24.0	765 75.2	8 0.8
	1年生	338 100.0	69 20.4	266 78.7	3 0.9
	2年生	342 100.0	83 24.3	256 74.9	3 0.9
	3年生	337 100.0	92 27.3	243 72.1	2 0.6

上段:実数 下段: %		男 子				女 子			
		合計	1 ある	2 ない	無回答	合計	1 ある	2 ない	無回答
全体		1,371 100.0	304 22.2	1,049 76.5	18 1.3	1,319 100.0	248 18.8	1,052 79.8	19 1.4
中 学 生	合計	845 100.0	154 18.2	677 80.1	14 1.7	828 100.0	154 18.6	659 79.6	15 1.8
	1年生	256 100.0	46 18.0	202 78.9	8 3.1	259 100.0	41 15.8	212 81.9	6 2.3
	2年生	292 100.0	51 17.5	238 81.5	3 1.0	291 100.0	57 19.6	229 78.7	5 1.7
	3年生	297 100.0	57 19.2	237 79.8	3 1.0	278 100.0	56 20.1	218 78.4	4 1.4
	合計	526 100.0	150 28.5	372 70.7	4 0.8	491 100.0	94 19.1	393 80.0	4 0.8
	1年生	168 100.0	42 25.0	124 73.8	2 1.2	170 100.0	27 15.9	142 83.5	1 0.6
高 校 生	2年生	179 100.0	49 27.4	129 72.1	1 0.6	163 100.0	34 20.9	127 77.9	2 1.2
	3年生	179 100.0	59 33.0	119 66.5	1 0.6	158 100.0	33 20.9	124 78.5	1 0.6

問9（問8で「ある」と答えた方へ）

「お酒」を飲んだきっかけは、なんですか？（主なものに○）

1 友達に勧められて	2 先輩に勧められて	3 興味があった
4 好奇心で	5 なんとなく	6 その他（ ）

- 「お酒」を飲んだきっかけは、「5. なんとなく」が23.4%（129人）、次いで「4. 好奇心で」が20.5%（113人）となっている。「なんとなく」理由もなく飲酒をしている割合も高い。
- 中学生のうちは「5. なんとなく」が最も多いが、高校生になると、「4. 好奇心で」と回答する割合が高くなっている。特に高校生男子は「4. 好奇心で」が3割弱（27.3%）となっている。
- 学年があがるにつれて、「1. 友だちに勧められて」とする割合も高くなっている。

上段：実数 下段： %		合計	1 友達に 勧め(すす)め られて	2 先輩に 勧め(すす)め られて	3 興味 (きょうみ) があった	4 好奇心 で	5 なんと なく	6 その他	無回答
全体		552	30	8	60	113	129	206	6
		100.0	5.4	1.4	10.9	20.5	23.4	37.3	1.1
性別	中学生	308	12	1	27	48	67	148	5
		100.0	3.9	0.3	8.8	15.6	21.8	48.1	1.6
	男子	154	5	0	17	22	31	78	1
		100.0	3.2	0.0	11.0	14.3	20.1	50.6	0.6
	女子	154	7	1	10	26	36	70	4
		100.0	4.5	0.6	6.5	16.9	23.4	45.5	2.6
	高校生	244	18	7	33	65	62	58	1
		100.0	7.4	2.9	13.5	26.6	25.4	23.8	0.4
	男子	150	12	6	21	41	35	34	1
		100.0	8.0	4.0	14.0	27.3	23.3	22.7	0.7
	女子	94	6	1	12	24	27	24	0
		100.0	6.4	1.1	12.8	25.5	28.7	25.5	0.0
学年	中学生	308	12	1	27	48	67	148	5
		100.0	3.9	0.3	8.8	15.6	21.8	48.1	1.6
	1年生	87	3	0	9	11	13	51	0
		100.0	3.4	0.0	10.3	12.6	14.9	58.6	0.0
	2年生	108	6	0	6	20	21	52	3
		100.0	5.6	0.0	5.6	18.5	19.4	48.1	2.8
	3年生	113	3	1	12	17	33	45	2
		100.0	2.7	0.9	10.6	15.0	29.2	39.8	1.8
	高校生	244	18	7	33	65	62	58	1
		100.0	7.4	2.9	13.5	26.6	25.4	23.8	0.4
	1年生	69	3	1	11	16	15	22	1
		100.0	4.3	1.4	15.9	23.2	21.7	31.9	1.4
	2年生	83	4	2	10	14	29	24	0
		100.0	4.8	2.4	12.0	16.9	34.9	28.9	0.0
	3年生	92	11	4	12	35	18	12	0
		100.0	12.0	4.3	13.0	38.0	19.6	13.0	0.0

上段:実数 下段: %		男 子							
		合計	1 友達 に勧めら れて	2 先輩 に勧めら れて	3 興味 があった	4 好奇 心で	5 なんと なく	6 その 他	無回答
全体		304 100.0	17 5.6	6 2.0	38 12.5	63 20.7	66 21.7	112 36.8	2 0.7
中 学 生	合計	154 100.0	5 3.2	0 0.0	17 11.0	22 14.3	31 20.1	78 50.6	1 0.6
		46 100.0	1 2.2	0 0.0	7 15.2	7 15.2	4 8.7	27 58.7	0 0.0
	1年生	51 100.0	3 5.9	0 0.0	3 5.9	8 15.7	12 23.5	25 49.0	0 0.0
		57 100.0	1 1.8	0 0.0	7 12.3	7 12.3	15 26.3	26 45.6	1 1.8
	2年生	51 100.0	3 5.9	0 0.0	3 5.9	8 15.7	12 23.5	25 49.0	0 0.0
		57 100.0	1 1.8	0 0.0	7 12.3	7 12.3	15 26.3	26 45.6	1 1.8
高 校 生	合計	150 100.0	12 8.0	6 4.0	21 14.0	41 27.3	35 23.3	34 22.7	1 0.7
		42 100.0	2 4.8	0 0.0	7 16.7	11 26.2	8 19.0	13 31.0	1 2.4
	1年生	49 100.0	3 6.1	2 4.1	7 14.3	9 18.4	15 30.6	13 26.5	0 0.0
		59 100.0	7 11.9	4 6.8	7 11.9	21 35.6	12 20.3	8 13.6	0 0.0
	2年生	49 100.0	3 6.1	2 4.1	7 14.3	9 18.4	15 30.6	13 26.5	0 0.0
		59 100.0	7 11.9	4 6.8	7 11.9	21 35.6	12 20.3	8 13.6	0 0.0
3年生	59 100.0	7 11.9	4 6.8	7 11.9	21 35.6	12 20.3	8 13.6	0 0.0	
	59 100.0	7 11.9	4 6.8	7 11.9	21 35.6	12 20.3	8 13.6	0 0.0	
上段:実数 下段: %		女 子							
		合計	1 友達 に勧めら れて	2 先輩 に勧めら れて	3 興味 があった	4 好奇 心で	5 なんと なく	6 その 他	無回答
全体		248 100.0	13 5.2	2 0.8	22 8.9	50 20.2	63 25.4	94 37.9	4 1.6
中 学 生	合計	154 100.0	7 4.5	1 0.6	10 6.5	26 16.9	36 23.4	70 45.5	4 2.6
		41 100.0	2 4.9	0 0.0	2 4.9	4 9.8	9 22.0	24 58.5	0 0.0
	1年生	57 100.0	3 5.3	0 0.0	3 5.3	12 21.1	9 15.8	27 47.4	3 5.3
		56 100.0	2 3.6	1 1.8	5 8.9	10 17.9	18 32.1	19 33.9	1 1.8
	2年生	56 100.0	2 3.6	1 1.8	5 8.9	10 17.9	18 32.1	19 33.9	1 1.8
		56 100.0	2 3.6	1 1.8	5 8.9	10 17.9	18 32.1	19 33.9	1 1.8
高 校 生	合計	94 100.0	6 6.4	1 1.1	12 12.8	24 25.5	27 28.7	24 25.5	0 0.0
		27 100.0	1 3.7	1 3.7	4 14.8	5 18.5	7 25.9	9 33.3	0 0.0
	1年生	34 100.0	1 2.9	0 0.0	3 8.8	5 14.7	14 41.2	11 32.4	0 0.0
		33 100.0	4 12.1	0 0.0	5 15.2	14 42.4	6 18.2	4 12.1	0 0.0
	2年生	34 100.0	1 2.9	0 0.0	3 8.8	5 14.7	14 41.2	11 32.4	0 0.0
		33 100.0	4 12.1	0 0.0	5 15.2	14 42.4	6 18.2	4 12.1	0 0.0

問 10 この1ヶ月の間にあなたはお酒を飲んでいますか？（○は1つ）

- この1ヶ月間にも飲酒をした生徒は、全体の3.6%（97人）で、中学生2.4%、高校生5.6%であった。

- 性別での内訳をみると、中学生では男子が1.9%（16人）、女子が2.9%（24人）、高校生では男子が7.6%（40人）、女子3.5%（17人）となっている。中学生では女子の割合が男子よりも若干高く、高校生は男子が女子よりも若干高い結果となっている。

上段：実数 下段：%		合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当
全体		2,691	97	439	16	2,139
		100.0	3.6	16.3	0.6	79.5
性別	中学生	1,674	40	255	13	1,366
		100.0	2.4	15.2	0.8	81.6
	男子	854	16	130	8	700
		100.0	1.9	15.2	0.9	82.0
	女子	828	24	125	5	674
		100.0	2.9	15.1	0.6	81.4
	高校生	1,017	57	184	3	773
		100.0	5.6	18.1	0.3	76.0
	男子	526	40	108	2	376
		100.0	7.6	20.5	0.4	71.5
	女子	491	17	76	1	397
		100.0	3.5	15.5	0.2	80.9
学年	中学生	1,674	40	255	13	1,366
		100.0	2.4	15.2	0.8	81.6
	1年生	515	11	73	3	428
		100.0	2.1	14.2	0.6	83.1
	2年生	583	12	91	5	475
		100.0	2.1	15.6	0.9	81.5
	3年生	576	17	91	5	463
		100.0	3.0	15.8	0.9	80.4
	高校生	1,017	57	184	3	773
		100.0	5.6	18.1	0.3	76.0
	1年生	338	11	56	2	269
		100.0	3.3	16.6	0.6	79.6
	2年生	342	20	63	0	259
		100.0	5.8	18.4	0.0	75.7
	3年生	337	26	65	1	245
		100.0	7.7	19.3	0.3	72.7

※非該当：飲酒経験のない生徒

上段：実数 下段：%		男 子					女 子				
		合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当	合計	1 はい	2 いいえ	無回答	非該当
全体		1,371	56	238	10	1,067	1,319	41	201	6	1,071
		100.0	4.1	17.4	0.7	77.8	100.0	3.1	15.2	0.5	81.2
中 学 生	合計	845	16	130	8	691	828	24	125	5	674
		100.0	1.9	15.4	0.9	81.8	119.8	2.9	15.1	0.6	81.4
	1年生	156	8	36	2	110	259	3	37	1	218
		100.0	5.1	23.1	1.3	70.5	100.0	1.2	14.3	0.4	84.2
	2年生	292	3	46	2	241	291	9	45	3	234
		100.0	1.0	15.8	0.7	82.5	100.0	3.1	15.5	1.0	80.4
	3年生	297	5	48	4	240	278	12	43	1	222
		100.0	1.7	16.2	1.3	80.8	100.0	4.3	15.5	0.4	79.9
高 校 生	合計	526	40	108	2	376	491	17	76	1	397
		100.0	7.6	20.5	0.4	71.5	100.0	3.5	15.5	0.2	80.9
	1年生	168	7	33	2	126	170	4	23	0	143
		100.0	4.2	19.6	1.2	75.0	100.0	2.4	13.5	0.0	84.1
	2年生	179	13	36	0	130	163	7	27	0	129
		100.0	7.3	20.1	0.0	72.6	100.0	4.3	16.6	0.0	79.1
	3年生	179	20	39	0	120	158	6	26	1	125
		100.0	11.2	21.8	0.0	67.0	100.0	3.8	16.5	0.6	79.1

(3) 性の知識について

問 11 あなたは避妊の方法を知っていますか？ (○は1つ)

- 避妊方法を知っている生徒の割合は、56.0%となっている。中学生が 38.4%、高校生が 84.9%となっている。
- 中学生では男子が 36.6%、女子が 40.3%、高校生では男子が 83.3%、女子が 86.6%「知っている」と回答している。
- 学年が高くなるにつれて、避妊法を知っている割合も高くなっているが、避妊について学んでいると思われる高校2～3年生においても「知らない」とする割合が1割前後みられる。

上段:実数 下段: %		合計	1 はい	2 いいえ	無回答
全体		2,691	1,506	1,160	25
		100.0	56.0	43.1	0.9
性別	中学生	1,674	643	1,011	20
		100.0	38.4	60.4	1.2
	男子	845	309	525	11
		100.0	36.6	62.1	1.3
	女子	828	334	485	9
		100.0	40.3	58.6	1.1
	無回答	1	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
	高校生	1,017	863	149	5
		100.0	84.9	14.7	0.5
学年	男子	526	438	84	4
		100.0	83.3	16.0	0.8
	女子	491	425	65	1
		100.0	86.6	13.2	0.2
	中学生	1,674	643	1,011	20
		100.0	38.4	60.4	1.2
	1年生	515	128	378	9
		100.0	24.9	73.4	1.7
	2年生	583	214	363	6
		100.0	36.7	62.3	1.0
	3年生	576	301	270	5
		100.0	52.3	46.9	0.9
	高校生	1,017	863	149	5
		100.0	84.9	14.7	0.5
	1年生	338	248	89	1
		100.0	73.4	26.3	0.3
	2年生	342	303	37	2
		100.0	88.6	10.8	0.6
	3年生	337	312	23	2
		100.0	92.6	6.8	0.6

上段:実数 下段: %		男 子				女 子			
		合計	1 はい	2 いいえ	無回答	合計	1 はい	2 いいえ	無回答
全体		1,371	747	609	15	1,319	759	550	10
		100.0	54.5	44.4	1.1	100.0	57.5	41.7	0.8
中 学 生	合計	845	309	525	11	828	334	485	9
		100.0	36.6	62.1	1.3	100.0	40.3	58.6	1.1
	1年生	256	59	192	5	259	69	186	4
		100.0	23.0	75.0	2.0	100.0	26.6	71.8	1.5
	2年生	292	95	194	3	291	119	169	3
		100.0	32.5	66.4	1.0	100.0	40.9	58.1	1.0
	3年生	297	155	139	3	278	146	130	2
		100.0	52.2	46.8	1.0	100.0	52.5	46.8	0.7
高 校 生	合計	526	438	84	4	491	425	65	1
		100.0	83.3	16.0	0.8	100.0	86.6	13.2	0.2
	1年生	168	121	46	1	170	127	43	0
		100.0	72.0	27.4	0.6	100.0	74.7	25.3	0.0
	2年生	179	155	22	2	163	148	15	0
		100.0	86.6	12.3	1.1	100.0	90.8	9.2	0.0
	3年生	179	162	16	1	158	150	7	1
		100.0	90.5	8.9	0.6	100.0	94.9	4.4	0.6

問 12 あなたは性感染症（クラミジア、梅毒、エイズ等）について、今まで学習したことがありますか（○は1つ）

- 性感染症について学習したことがある生徒の割合は、全体で 84.8%となっている。中学生が 79.9%、高校生が 92.9%となっている。
- 性別での大きな差はなく、学年が高くなるにつれ、学習した生徒の割合も高くなっている。

上段:実数 下段: %		合計	1 はい	2 いいえ	無回答
全体		2,691 100.0	2,282 84.8	397 14.8	12 0.4
性別	中学生	1,674 100.0	1,337 79.9	330 19.7	7 0.4
	男子	845 100.0	668 79.1	173 20.5	4 0.5
	女子	828 100.0	669 80.8	156 18.8	3 0.4
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	高校生	1,017 100.0	945 92.9	67 6.6	5 0.5
	男子	526 100.0	479 91.1	44 8.4	3 0.6
	女子	491 100.0	466 94.9	23 4.7	2 0.4
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
学年	中学生	1,674 100.0	1,337 79.9	330 19.7	7 0.4
	1年生	515 100.0	409 79.4	103 20.0	3 0.6
	2年生	583 100.0	458 78.6	123 21.1	2 0.3
	3年生	576 100.0	470 81.6	104 18.1	2 0.3
	高校生	1,017 100.0	945 92.9	67 6.6	5 0.5
	1年生	338 100.0	304 89.9	34 10.1	0 0.0
	2年生	342 100.0	323 94.4	17 5.0	2 0.6
	3年生	337 100.0	318 94.4	16 4.7	3 0.9
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	中学生	1,674 100.0	1,337 79.9	330 19.7	7 0.4
	1年生	515 100.0	409 79.4	103 20.0	3 0.6
	2年生	583 100.0	458 78.6	123 21.1	2 0.3

上段:実数 下段: %		男 子				女 子			
		合計	1 はい	2 いいえ	無回答	合計	1 はい	2 いいえ	無回答
全体		1,371 100.0	1,147 83.7	217 15.8	7 0.5	1,319 100.0	1,135 86.1	179 13.6	5 0.4
中 学 生	合計	845 100.0	668 79.1	173 20.5	4 0.5	828 100.0	669 80.8	156 18.8	3 0.4
	1年生	256 100.0	198 77.3	58 22.7	0 0.0	259 100.0	211 81.5	45 17.4	3 1.2
	2年生	292 100.0	226 77.4	64 21.9	2 0.7	291 100.0	232 79.7	59 20.3	0 0.0
	3年生	297 100.0	244 82.2	51 17.2	2 0.7	278 100.0	226 81.3	52 18.7	0 0.0
	合計	526 100.0	479 91.1	44 8.4	3 0.6	491 100.0	466 94.9	23 4.7	2 0.4
	1年生	168 100.0	143 85.1	25 14.9	0 0.0	170 100.0	161 94.7	9 5.3	0 0.0
	2年生	179 100.0	166 92.7	11 6.1	2 1.1	163 100.0	157 96.3	6 3.7	0 0.0
	3年生	179 100.0	170 95.0	8 4.5	1 0.6	158 100.0	148 93.7	8 5.1	2 1.3
高 校 生	合計	526 100.0	479 91.1	44 8.4	3 0.6	491 100.0	466 94.9	23 4.7	2 0.4
	1年生	168 100.0	143 85.1	25 14.9	0 0.0	170 100.0	161 94.7	9 5.3	0 0.0
	2年生	179 100.0	166 92.7	11 6.1	2 1.1	163 100.0	157 96.3	6 3.7	0 0.0
	3年生	179 100.0	170 95.0	8 4.5	1 0.6	158 100.0	148 93.7	8 5.1	2 1.3

7. 那覇市母子保健推進協議会規則など

那覇市母子保健推進協議会規則

平成15年7月2日

規則第63号

改正 平成26年2月3日規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、那覇市附属機関の設置に関する条例(昭和52年那覇市条例第2号)第3条の規定に基づき、那覇市母子保健推進協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(担当事務)

第2条 協議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 母子保健計画の策定及び推進に関すること。
- (2) 母子保健事業における保健、医療、福祉、教育等関係施策との連携に関すること。
- (3) 母子保健事業における医療費助成の決定に対する不服申立てに関すること。
- (4) その他母子保健の推進に関すること。

(組織)

第3条 協議会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 本市を除く関係行政機関の職員
- (3) 関係団体の役員及び職員
- (4) 市民

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選でこれを定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 前項の場合においては、会長は、委員として議決に加わる権利を有しない。

(部会)

第7条 第2条第3号の事項を調査審議させるため、協議会に部会を置くものとする。

2 部会に属すべき委員は、協議会の委員のうちから会長が指名する。

3 第3条第1項の規定にかかわらず、特に専門的な事項を調査審議させるため必要があると認めるときは、部会に臨時委員を置くことができる。

- 4 臨時委員は、特に専門的な事項について学識経験を有する者のうちから市長が委嘱する。
- 5 臨時委員の任期は、前項の事項に係る調査審議が終了するまでの間とする。
- 6 協議会においてあらかじめ議決を経た諮問事項については、部会の決議をもって協議会の決議とすることができる。
- 7 前2条、次条及び第9条の規定は、部会について準用する。

(関係者の出席)

第8条 協議会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

付 則

この規則は、公布の日から施行する。

付 則(平成26年2月3日規則第1号)

この規則は、公布の日から施行する。

■名簿

那覇市母子保健推進協議会委員名簿

(平成27年3月現在)

	代表区分	氏 名	所 属	備考
1	関係団体 (小児科医)	ぐし かずお 具志 一男	沖縄県 小児科医会	会長
2	学識経験者	とうやま ゆうこ 當山 裕子	琉球大学医学部保健学科地域看護学	副会長
3	関係行政機関	くによし えつこ 国吉 悦子	沖縄県 保健医療部 健康長寿課 母子保健班	
4	関係団体 (産婦人科医)	とかしき みどり 渡嘉敷 みどり	沖縄県産婦人科医会	
5	関係団体 (歯科医)	いしはら はじめ 石原 一	(社)南部地区歯科医師会	
6	関係団体 (小児神経科医)	しろま なおひで 城間 直秀	医療法人愛燦会発達神経クリニックプロップ	
7	関係団体 (母子保健推進員)	ぐしけん けいこ 具志堅 恵子	那覇市母子保健推進員協議会	
8	関係団体・市民 (子育て支援)	たいら ひろこ 平良 博子	NPO法人ファミリーサポート愛さん会	
9	関係団体・市民 (子育て支援)	つちや ゆみこ 土屋 由美子	子育て応援キャラバン隊はぐくみ	

「健やか親子なは」計画策定作業部会設置要綱

(設置)

第1条 平成27年度から平成36年度までの「健やか親子なは」を策定するため、「健やか親子なは」計画策定作業部会(以下「部会」という。)を設置する。

(目的)

第2条 部会は、計画策定にあたり、住民代表、関係団体・組織、専門家、行政担当者等が担当する分野の課題を共有し、各々の取り組みや連携した取り組みなど対策の検討を行うことを目的とする。

(部会の構成及び所掌事務)

第3条 部会をより円滑に運営するため、次のグループを設置し、それぞれの事項を所掌する。

- (1) 周産期部会を設置し、「健やか親子なは」における周産期に関する事項を協議及び検討する。
- (2) 乳幼児部会を設置し、「健やか親子なは」における乳幼児期に関する事項を協議及び検討する。
- (3) 学童・思春期部会を設置し、「健やか親子なは」における学童期・思春期に関する事項を協議及び検討する。

(組織)

第4条 部会員は、「別表」のとおりとする。

- 2 部会に会長及び副会長を置き、委員の互選でこれを定める。
- 3 会長は、部会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 部会の会議は、会長が招集する。ただし、初回の会議は母子保健推進協議会長が招集する。

- 2 部会において、必要があると認めるときは、関係者に出席を求め、意見及び説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 部会の庶務は、健康部地域保健課が行う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が部会に諮って定める。

付 則

この要綱は、平成26年10月17日から施行する。

■別表 <「健やか親子なは」策定作業部会>

	No	メンバー	所属など
①周産期部会 外部委員4人 庁内委員4人 事務局2人 計 10人	1	玉城 和美	沖縄協同病院 小児・産婦人科病棟師長
	2	宮里 玲子	沖縄県栄養士会 地域活動栄養士
	3	上原 仁美	妊産婦・新生児訪問助産師
	4	山城 章	那覇市社会福祉協議会 地域福祉課 課長
	5	嘉手納 一彦	健康増進課 歯科医師
	6	濱川 ルミ	子育て応援課 子育て支援室
	7	高良 瑠利子	こどもみらい課 子育て支援センター
	8	玉木 宏尚	地域保健課 助産師訪問担当保健師
	9	崎 辰子	事務局 地域保健課
	10	佐平 千佳	事務局 地域保健課
②乳幼児期部会 外部委員4人 庁内委員5人 事務局3人 計 12人	1	森脇 千夏	沖縄県自閉症協会 会長
	2	山城 初枝	那覇市母子保健推進員協議会母子保健推進員
	3	平良 博子	愛さん会（育児サポート団体）
	4	三木 元子	あじゃ保育園 認可保育園園長会代表
	5	金城 まみ	健康増進課 栄養士
	6	上地 敦子	こども政策課 あめくみらい幼保園
	7	佐久川 博美	こどもみらい課 療育センター心理士
	8	島袋 盛敦	障がい福祉課 発達障害担当
	9	屋嘉比 勝	消防局救急課 主幹
	10	崎原 真由美	事務局 地域保健課
	11	知念 則枝	事務局 地域保健課
	12	瑞慶山 躍司	事務局 地域保健課
③思春期部会 外部委員7人 庁内委員4人 事務局2人 計 13人	1	崎原 京子	那覇地区養護教諭研究会 養護教諭
	2	新垣 稚子	那覇地区養護教諭研究会 養護教諭
	3	宜保 律子	学校栄養士会 学校栄養士
	4	百名 奈保	思春期保健相談士 助産師
	5	具志堅 恵子	那覇市母子保健推進員協議会母子保健推進員
	6	吉田 洋史	那覇市PTA 連合会 副会長
	7	島尻 和子	那覇市民生委員児童委員連合会 主任児童委員
	8	砂川 昌太	健康増進課 感染症班 保健師
	9	新垣 八十恵	健康増進課健康づくり班 保健師
	10	町田 久乃	教育相談課 教育相談主査
	11	宮浦 美佳	地域保健課 自殺予防担当保健師
	12	上原 周子	事務局 地域保健課
	13	當銘 なつ季	事務局 地域保健課

8. 策定の経緯

年 月 日	内容など
平成 26 年 9 月 ～11 月	・乳幼児健診（健やか親子なは）アンケート調査の実施
平成 26 年 10 月	
1 日（水） 19 時～	第 1 回那覇市母子保健推進協議会 ・計画策定の諮問 ・「健やか親子なは」の評価について
30 日（木） 14 時～17 時	第 1 回「健やか親子なは」計画策定作業部会 ・「健やか親子なは」の概要、課題の共有、重点テーマの検討
平成 26 年 11 月	
13 日（木） 14 時～17 時	第 2 回「健やか親子なは」計画策定作業部会 ・課題への対策検討、各組織の取り組みの報告及び意見交換
平成 26 年 12 月	
19 日（水） 19 時～	第 2 回那覇市母子保健推進協議会 ・「健やか親子なは」評価のまとめ（那覇市の母子保健の課題）の確認 ・新計画の方針（骨子）案等の確認
平成 27 年 1 月	
14 日（水） 14 時～17 時	第 3 回「健やか親子なは」計画策定作業部会 ・対策の検討、連携する取り組み等の検討
28 日（水） 19 時～17 時	第 3 回那覇市母子保健推進協議会 ・新計画の施策事業、目標指標等について
平成 27 年 2 月	
2 月 20 日（金） ～3 月 6 日（金）	・パブリックコメントの実施
平成 27 年 3 月	
18 日（水）	市長への答申

健やか親子なは2015

那覇市母子保健計画

平成27年3月

発行：那覇市 健康部 那覇市保健所 地域保健課
〒902-0076
沖縄県那覇市与儀1丁目3番21号
電話：098-853-7962
